Bible: the law of success 11

失敗を恐れない！　負のフラッシュ・バックを解放する法則

――「毎日1度は〝恐れるな！〟と呼びかけてみよう」

１９６０年代初頭から１９７５年まで、ベトナムの地で北を支援したソ連、中国の社会主義国と南を支援したアメリカとの間で繰り広げられた武力抗争は、死傷者アメリカ軍６万人、南北ベトナム人２００万人近くの犠牲を出し、36年たった今でも大量に空中散布されたジャングルを野原と化す枯葉剤の後遺症で多くの住人に遺伝子レベルの後遺症が残り、出生奇形児などの問題が残っています。これは当時、戦闘地域にいたアメリカ兵も同様の後遺症があると言われていますが、私たちの心も過去のいつかどこかでまかれた毒によって後々まで蝕まれていることはないでしょうか。日常生活では銃や刃物で傷つけられることは稀ですが、かくも身近なところで人々は不可視な武器の脅威にさらされ、自覚症状の認知に関係なく誰もがその危害を受けているものがあります。それが言葉という武器であり、悪魔の使う常套手段の毒です。

「蛇のように、その舌を鋭くし、そのくちびるの下には、まむしの毒があります。」

（詩篇１４０：３）

人や自分を傷つける言葉、呪い、つぶやき、否定的な言葉、不信仰な反聖書的告白が内側から内充する毒のように人の心を傷つけるとき、早期治療が必須です。

アメリカではベトナム戦争帰還兵の多くが、正常な市民生活になかなか戻れず、無気力、震え、戦争体験に似た何かに敏感に反応するなどベトナムシンドロームと呼ばれる精神異常をきたしました。映画「ランボー」ではクリスチャン俳優シルベスタ・スタローンがその役を演じましたが、過去のひどいストレスや恐怖体験、耐え難い外傷体験などを克服できないでいると強い恐怖を感じたあと、その出来事を思い出して恐怖にさいなまされたり、その出来事と似通った状況を避けたり、不眠症になったり、外傷後ストレス障害として反社会的な異常行動に陥る傾向があります。何の脈絡も無く、あるいは外傷体験を連想させるものごとに遭遇したことをきっかけにして、映画の一場面のように恐怖の瞬間がありありと思い出される負のフラッシュ・バック体験です。

聖書のペテロはイエス・キリストに対して、鶏が鳴くまでに3度の裏切りの言葉を発言して大失敗しましたが、復活のイエスにお会いして心癒されるまでは、その夜に聞いた鶏の鳴き声こそ、嫌な過去をそのままリンクして鮮明に思い出す負のフラッシュ・バック体験として心に残り、ペテロにとって朝毎に聞こえる鶏の鳴き声イコール裏切りの象徴という形で軽度のストレス障害となったことでしょう。

誰もが先行き不透明な時代に生かされて不安要素を抱えていますが、日々の些細な不安を敏感に受け止めすぎて、深刻に悩んでうまく消化できないと最悪、疲労感、集中力の低下、イライラ感、睡眠障害となって現れてきます。健康に対する不安、経済的な不安、家族のこと、リストラや倒産など、他人の評価、そして見えない将来や死に対する不安など例を挙げると不安要素は世に生きる限りつきません。

誰かが数えたそうですが、聖書には「恐れるな！」という御言葉が３６５回書かれているそうです。毎日聖書を読むことによって神様は一年中、毎日1度は「恐れるな！」と呼びかけているので

す。それくらい恐れが環境を取り巻き、恐れないよう警告と激励が必要な時代なのです。

「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」（マタイ10：28―31）

恐れにも各種の対象がありますが、苦々しい過去の忌まわしい記憶を癒すことが必要です。第二次大戦中、ハワイ沖に沈められた米国戦艦が今でも、時にオイルを滲み出しているそうです。

昔の記憶なのに今も生きて働いている苦い何か、私たちの中に残っていないでしょうか。

アメリカ軍の上陸により、大変な激戦地となった沖縄では、最近でも水道管工事の際、触れた地中の不発弾が炸裂して作業員が大火傷しました。

日本だけでまだ3000トンもの不発弾が地中に眠っており、66年たった今でも破壊的な殺傷能力があり、すべてを処理するには今後80年もかかるそうです。心の地中に眠る忘れられた過去の記憶の危険な不発弾処理は今でも必要不可欠です。

恐れには、場所や状況が怖くて、引きこもりがちになる広場恐怖現象もあります。イエスの十字架を目撃した直後の11弟子たちはユダヤ人たちからの同様の暴力的迫害を恐れて室内で戸を閉めて、鍵もかけて引きこもっていました。（ヨハネ20：19、26）

彼ら11弟子たちの最も恐れた場所と状況はカルバリの十字架だったのです。何か困ったことが起きても誰にも助けてもらえなかった、あるいは恥ずかしい思いをしたことがあるという場所や状況に対する恐怖です。場所や状況と記憶がリンクするため、ある人にとってはそれが人混み、渋滞する道路、橋、電車や飛行機、エレベーターなどの乗り物などを恐れの対象として置き換えるケースもあります。

私は小学生のとき、右翼の真っ黒い装甲車のような大きいバスをあやまって爆竹花火で一台燃やしてしまったことがあります。

この火災以降、しばらくの間は火の恐怖が記憶にリンクして台所のガスコンロさえ怖かった時期がありました。もちろん今はガスコンロも炎のキャンプファイアーも怖くありませんが。

また、学校や会社等の人と会うのが苦痛な社会不安障害もあります。自分が恥ずかしい思いをする可能性の状況に対し不安反応が誘発され、職場や学校などの社会的な状況下で赤面や動悸、震えや混乱が生じる現象です。

ある知り合いの男性は高校生の時、国語の漢文の授業の時、先生から突然、漢文を読むように言

われましたが、ぼっとしていてよく聞いていなかったので、あてられたことにびっくりしながら立ち上がり、無我夢中で変な読み方をして、みんなの笑いものになってしまいました。

「くくくけれれければ」その恥ずかしかった一瞬の苦い体験が切欠に彼はその後の人生で長いこと対人恐怖症を患ったと言います。

しかしそんな彼も聖書の成功法則を理解して恐れから解放され、人と親しく交われるように回復し、妻子にも恵まれて、今ではセールスマンとして好成績をあげながら忙しい日々を過ごしています。

目に見えない領域で受けたストレスや心の傷が癒されず、長期間放置された結果、やがては目に見える領域で病という形になって現れるケースもあります。解離性障害といい、苦痛やストレスにより記憶や意識、身体運動の正常なコントロールを失う神経症のことですが、自分のしたことを覚えていなかったり、周りの刺激に反応しなくなったり、声が出なくなったり、立てなくなったりする症状まであります。

特に受けたストレスや心の傷がひどい場合、大動脈解離、胸や肩、背中、腰に激痛が現れ、放っておくと頭部や四肢、心臓や腎臓、腸管などに血液が流れなくなってしまうので、緊急手術が行われることさえあります。脊髄の血行が障害されると、麻痺や膀胱直腸障害を起こします。

ささいな日常生活で受けやすいストレスによる不安や抑圧された心理的葛藤は、長期間放置する

と最悪、体や精神のさまざまな症状として現れることとは、すなわち心と体が密接に連動して働いているということです。

よく教会のメッセージで「憎んでいる誰かを心底、赦してから祈ると病気が癒された」という奇跡の証を聞いたことがあります。この種のストレスから生じた病であれば、その根源なる「赦せないという感情のストレス自体」を除けば癒しが追従することは医学的にも理にかなった出来事と言えます。憎悪は連続した怒りを抑えたものですが、この長期間に渡って蓄積して構築された憎悪のとりでを破壊するには赦しを宣言することです。かつてベートーベンは「憎しみはその心を抱く者の上にはね返ってくる」と言いましたが、憎悪が各種の病と連動して働き、発病という形でわが身にはね返ってくるとは、何とも割に合わない話です。

人は神が創った作品ゆえ、非常によくできており、受けたストレスをどんなにうまく隠しても顔の表情に表れたり、心の憂いが暗い顔という形で表れ出たりするものです。汚れた心も汚い目つきになって表れます。人が誰かを愛するとは、愛した対象に深い関心をよせるという積極的行為です。愛するがゆえに相手をもっと知りたい深い関心が寄せられます。そんな意味では愛の反対は憎しみではなく無関心です。愛するなら積極的に会話し、敏感に相手の外的変化を観察して心の乱れを読み取ってください。会話を通じて心の中にある不安やわずらいごとが吐き出され、多くは大病に至らず早期に治療、解消できます。

自己暗示能力の高い幼少期に虐待された苦痛体験を「痛くない」と自分に言い聞かせることで、いやな感覚を麻痺させる現象もあります。

しかしこの自己暗示的手段も一時的なもので耐え続けるといずれ限界が来て、その反動はいや増し大きな反社会的行動となるケースがあります。ストレスは日々、発散して蓄積しないことがベストでしょう。

ある女性は、母親から大事にされず虐待され続けて成人しました。

ある時には食事も与えられることなく、飢えと苦痛と憎しみの中で紙を食べていたこともあったそうです。そして学校でのいじめが8年間も続きました。

しかし彼女は周囲の人たちからどんなにひどい虐待を受けても両親が争ってほしくなかったので愛する父親にだけは母親からの虐待の事実をひたすら隠し通しました。まるで何もなかったかのように、「痛くないよ」と自分に言い聞かせながら、自分自身のずたずたに傷ついた心を閉ざしたままに生きてきました。幼少期に、愛されず、虐待されたり、体罰を受けたり、親から充分に甘えさせてもらえないと、人は自分の価値を感じることができなくなります。彼女は自分の本当の価値を次第に実感できなくなり、ついには自らを傷つけ自殺未遂を繰り返すようになりました。彼女の存在に価値がなかったのではなく、幼少期に充分に甘えられなかった、親の愛を十分受けられなかったことが事の原因でした。

やがて母親の日常的な虐待が父親の目にも留まるようになり、このことをきっかけに両親は離婚することになりました。彼女は妹と引き裂かれ、ひとり父親に引き取られましたが、火の試練は終わりません。

離婚後の父親が突然倒れ、意識不明のまま生涯不治と宣告された脳卒中で半身不随の寝たきり状態になりました。連日、唯一の頼れる肉親である父親のいる病院に来ては、ただひとり朝から晩まで付き添って座り、ただ手を取り語り続ける。これが彼女にできるすべての日課となりました。

「パパ。聞こえる？　今日も来たよ。私はここにいるよ」

このようにいちずな姉妹に神様は、ずうっと目を留めていました。ある日、彼女がいつものように病院にいる意識不明の父親のかたわらで、その回復を願って、赤・白・黄色と折り紙の千羽鶴を折っていたとき、千羽鶴、まさにそれは彼女にとって回復を願う、唯一のこの世から教わった癒しの知識、頼みの綱のような、真剣で大切な祈り行動です。

その時、まだ知らなかった本当の神様が彼女のすべてを始めから知られ、ついに救いの手を差し伸べました。ひとりの若い姉妹がやさしく話しかけました。

「折り紙、手伝いましょうか」

神様に用いられたこの姉妹は高校生で父親が心臓の病で入院中だった私たちの教会員の娘でした。この親切で信仰ある姉妹は折り紙の千羽鶴を単純にむなしい偶像とはとらえず、父親を愛し、その回復を願う同じ真心から、真剣に一枚一枚一緒になって折り始めました。美しい愛です。信仰ある

姉妹の母親の手もこの丁寧な作業に加わりました。この愛の奉仕をきっかけに孤独だった姉妹は教会に導かれるようになりました。

その直後に、突如、現れ出た初対面の最も近い親族のおじという人物から寝たきりの父親の財産と分譲マンションすべてを合法的にサインひとつで騙し取られました。しかしイエスの愛を知った姉妹は昔とは違います。確かに強くなりました。雄々しくなりました。もう火の試練の只中でも自殺の考えはありません。事実、多くの試練の中、すべてを失いましたが、この世は過酷で無情にすべてを剝ぎ取りましたが、たった一つ誰にも奪えない信仰だけが彼女の永遠の財産となりました。

十字架のイエスの愛を知った今では毎週、涙を流しながら礼拝を真剣に捧げています。そして誰よりも最もよく泣くけれど、最も生き生きと明るく輝いて微笑んでいます。病床にいる父親の癒しを信じて、日々、手を取り語り続けています。

以前と変わらず優しい愛に満ちて父親に語りかけます。ただ唯一大きく変わったことは、新しいことばです。祈り、父親に優しく語りかける愛の言葉が成長しました。

「パパ。私だよ。今日も来たよ。ここに一緒にいるからね。大丈夫だよ。イエスがついているからね」

耳元でささやく聖書の言葉と賛美の小声は今日もやさしく静かに響き渡り、病室内での小声だけれど、決して小さくはない、このように書籍を通じて読者の皆様と天国にまで響き渡る大きな希望の福音です。

Bible: the law of success 12

過ちは指摘・非難せず、誉め続ける希望の法則

——「女流作家マージョリー・ローリングスの成功美学」

イエス・キリストは自分たちの宗教こそ最も優れていて他の者たちは呪われた連中だと考えて見下す霊的に高慢な祭司長や律法学者には厳しく対応されて彼らの偽善を指摘しましたが、悔い改めてへりくだっている罪人や遊女や取税人に対してはとてもやさしく寛大に接しています。しかも罪の中にいぜん生活している人々に対してでさえ、ただの一度も罪を指摘して攻撃してはいません。むしろイエスの中にはいつも無限大の愛と赦しだけが輝いています。

このことは私たちも学ぶべき教訓で、人を正して成功させるのに役立つ法則です。ただ相手の過ちを指摘して叱らず、誉め続けて更生させる希望の法則です。イエスは本当に多くこれをしています。

姦淫の現場で捕らえられた女性に対しても群集は石打死刑を願いましたが、イエスは「**わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。**」（ヨハネ8：11）と、律法的に裁くことをせず赦しを宣言されました。

弟子たちに裏切られて十字架の死を体験されて後、3日目に復活したときにも、イエスは弟子たちの前に現れましたが、ただの一言も先日の裏切り行為については語られず、むしろ空腹で事業不振な弟子たちに153匹もの魚が採れる大漁体験と朝の食事まで与えておられます。

この法則をまねて体得すれば、対人関係は非常に良くなります！

叱るべき時に我慢してほめて励まし続けることです。しかも真実な愛で。

「それでは、悪いことをした相手をもっとつけあがらせるのでは？」と思われますが、ここに真実な愛が入れば人は変わります。むしろ多く叱るよりほめるほうが更生させる効果は高いです。

罪を犯す人は自分で一番、罪深いことを知っています。そこをあえて叱らず、指摘せず、徹底的な愛で受け入れて励まして、ほめてあげると、頑固な人の心でも、とけて変わります。罪の指摘で戦えばもっと強情に硬くなります。チャレンジしてみましょう！　この法則を。

100パーセントの悪人はいません。誰にでも必ず長所があります。その良い部分を引きだすことが、この法則です。相手をほめれば、その希望の力が罪と悪習慣から立ち直る原動力になります。叱って潰せば希望の芽をつんでしまい、更生の力も消えうせます。

こんな成功事例があります。

ウィスコンシン大学の文学部に才能を持った2大グループのサークルがありました。彼らは人呼んで男性学生たちからなる「絞め殺しの会」と女性学生からなる「ほめたたえる会」です。

いずれも将来は一流の文学者として、第一線で活躍することを夢見た作家のたまごたちです。前者の「絞め殺しの会」がそう呼ばれるゆえんは、とにかく学生どうして書き上げた相手の作品を厳しく批評して、よりよい作品になることを願う方針です。そのためサークル内ではいつも互いに批評しあって「この作品はこの表現が難しいよ」とか「ここはまずいよ」とか、とにかく絞め殺され

る雰囲気ピリピリでした。

一方、後者の「ほめたたえる会」では、いつも「その表現がすばらしいよ」とか「ここが好きよ、いい作品ね」とか、とにかく互いにほめたたえあっていました。やがて学生たちは卒業して実社会に出て行きましたが、20数年が過ぎたあるとき、一人の人物が興味本位から彼ら2大グループの追跡調査を行なってみました。

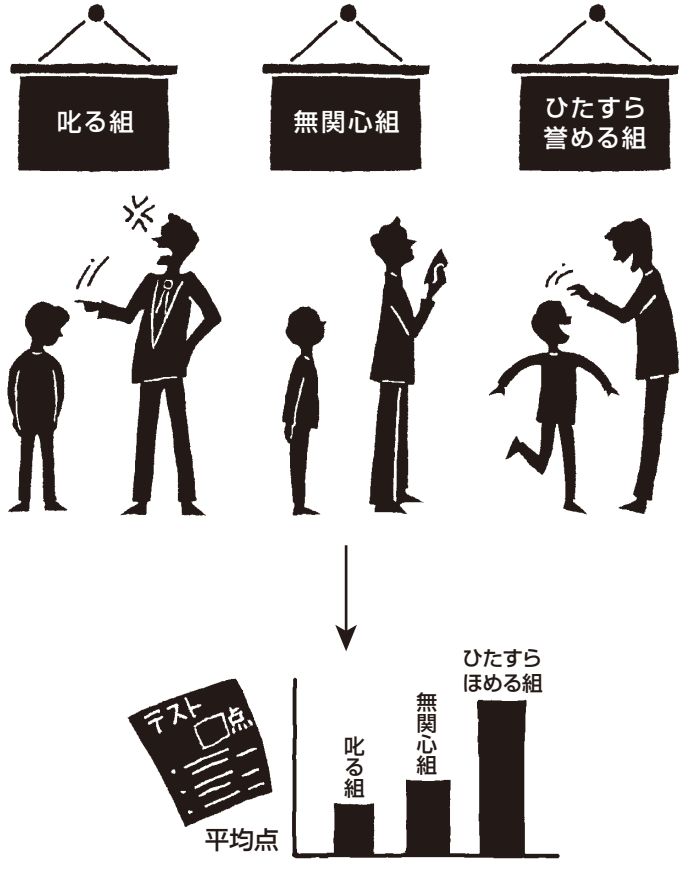
結果は、「絞め殺しの会」から優れた作品を世間に出して作家本業になれた人物はゼロ。

一方、「ほめたたえる会」からは6名の女流作家が誕生して活躍中でした。その中で一番有名な人物は「子鹿物語」を書いたマージョリー・キナン・ローリングスです。しかし、裁き続けたもう一方のグループは若者たちの才能の目まで摘み取ってしまい、絞め殺してしまったようです。誰にでも励ますこと、繰り返し勇気付けて希望を与えてほめてあげることを実践しましょう！

ある別な小学校の調査でもクラスごとの成績の違いが、やはり教師からの動機づけの違いにあることが分かっています。あるクラスは「ひたすらほめる」教育方針。あるクラスは「無関心」。生徒が良い点をとっても悪い点をとっても無関心。そしてもうひとクラスは、とにかく「叱る」厳しい教育方針。しばらくした後、同じ統一試験をこれら3クラスに受けさせると、明らかにクラスごとの平均点に開きがでたそうです。

一番成績優秀だったのは、もうお分かりですね。「ひたすらほめる」クラス。最悪はとにかく

〈過ちは指摘・非難せず、誉め続ける希望の法則〉



叱るべき時も我慢して、
真実の愛で誉めて励まし続ける

「叱る」クラスだったそうです！

聖書の話に父の財産を湯水のように使い果たして放蕩の果てに帰ってきた息子に対して、迎え出た父親はこれまた、一切叱らず、抱きしめ、口づけしながら、ただ祝福だけを与えています。驚異的な教育方針です。

凡人なら「お前！　今頃帰ってきて！　どこほっつき歩いて来たんだ！」と、なりますが……。この話の父親は罪を犯しても、悔い改めて帰って来る者を父なる神も同様に一切、叱責せずに愛をもって抱きしめて口づけして受け入れてくれる事実を象徴しています。そしてそのとき与えた父から子への数々の贈り物のように、父なる神様も神の子に良いものを喜んで与えてくださるというメッセージがそこに隠されています。

今でも一人の放蕩息子が神様のふところに帰る瞬間、天国で父なる神は叫びます！　大声で、喜びを持って！

「急いで一番良い着物を持って来て、この子に着せなさい。それから、手に指輪をはめさせ、足にくつをはかせなさい。そして肥えた子牛を引いて来てほふりなさい。食べて祝おうではないか。この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。そして彼らは祝宴を始めた。」（ルカ15：22―24）

今、父なる神様に立ち返る私たちがいただける贈り物の霊的意味とは…

一番良い着物＝キリストを着る、罪の赦しの福音

手に指輪＝父が実の子だけに与えるしるし、神の子になる福音

足にくつ＝当時、貧民や奴隷は靴なし、物質的豊かさの福音

肥えた子牛＝食べて栄養失調から回復、癒しと健康の福音

祝宴＝礼拝、特に空中携挙（ラプチャー）にあずかり、天国に入る福音

Bible: the law of success 13

祈りの力で守護され、豊かさを実現させる法則

——「ロバート・ブルース革命と韓国大統領誕生の秘話」

成功者には敵が多いものです。有名になればなるほど、守りが必要不可欠となります。祈りこそ人間の力を超えた不思議な何かを起こすということは否定できない現実です。ここに三つだけ、(これらは特殊な体験談ですが)、実際に起きた奇跡を紹介したいと思います。

この法則は私には使えないと放棄せず、是非トライして頂きたい。

手順は最初に「父なる神様!」と天に向かって呼びかけて、イエスを信じながら正直な自分の言葉で願いを祈り求める。もし罪を感じたら悔い改めて告白する。そして最後の締めくくりは「イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。アーメン」と言う。難しくはないです。不思議を体験ができます。おすすめです。

スコットランドの独立運動家、ロバート・ブルース。彼はスコットランドをイギリスから独立させるために活動し、時にはイギリスの情報局の軍人からいのちまでも狙われていました。必死に山中へ逃げ込んだことまでありました。追っ手は速かったです。ロバートは無我夢中で走りながら山中で見つけた洞窟内へ飛び込みました。そして必死に神様に命乞いの祈りを捧げたそうです。

「父なる神様。助けてください。殺されそうです。洞窟内にいる私が捕まらないよう私のいのちを守ってください!」

しばらくすると洞窟の入り口付近に追っ手の軍人たちが到達したようで会話が聞こえてきました。

「おい、この洞窟内に隠れているんじゃないか?」すると一人が答えました。「いや、そんなことはないだろう」「なぜ分かる?」「このクモの巣を見れば明らかだ。人が中に入れば綺麗な巣が残っているわけないだろう」「なるほど」

やがて彼らの足音は遠のきました。

ロバートは、はいずりながら、洞窟の入り口付近まで出てきました。

すると、驚きました。洞窟に彼が飛び込んだときには何もなかったのに、今は! わずかな時間で入り口一杯に立派なクモの巣が張り巡らされているではありませんか! 神様は祈るロバートに応えてクモを送り、奇跡的に彼を守られたのです。こうしてロバートは後にスコットランドの独立を見事に成し遂げることができたそうです。

もう一つの証しは、ある牧師が間違い電話をかけた実話です。

彼はその日、帰宅が遅くなるようなので、家内に知らせようと携帯電話の電話帳機能から登録されている自宅にワンプッシュで電話しました。

しかし、いくら待っても呼び出し音だけで誰も電話に出ません。あきらめてその日は連絡なく遅くに帰宅しました。翌日、牧師は言いました。

「昨日は一体どこ行っていたんだ。電話を鳴らしたのに受けないなんて」すると奥さんは怪訝そうに答えて言いました。

「え、知らないわ。夕べ電話は鳴っていないわよ」

「おかしいな。まちがえたかなあ」

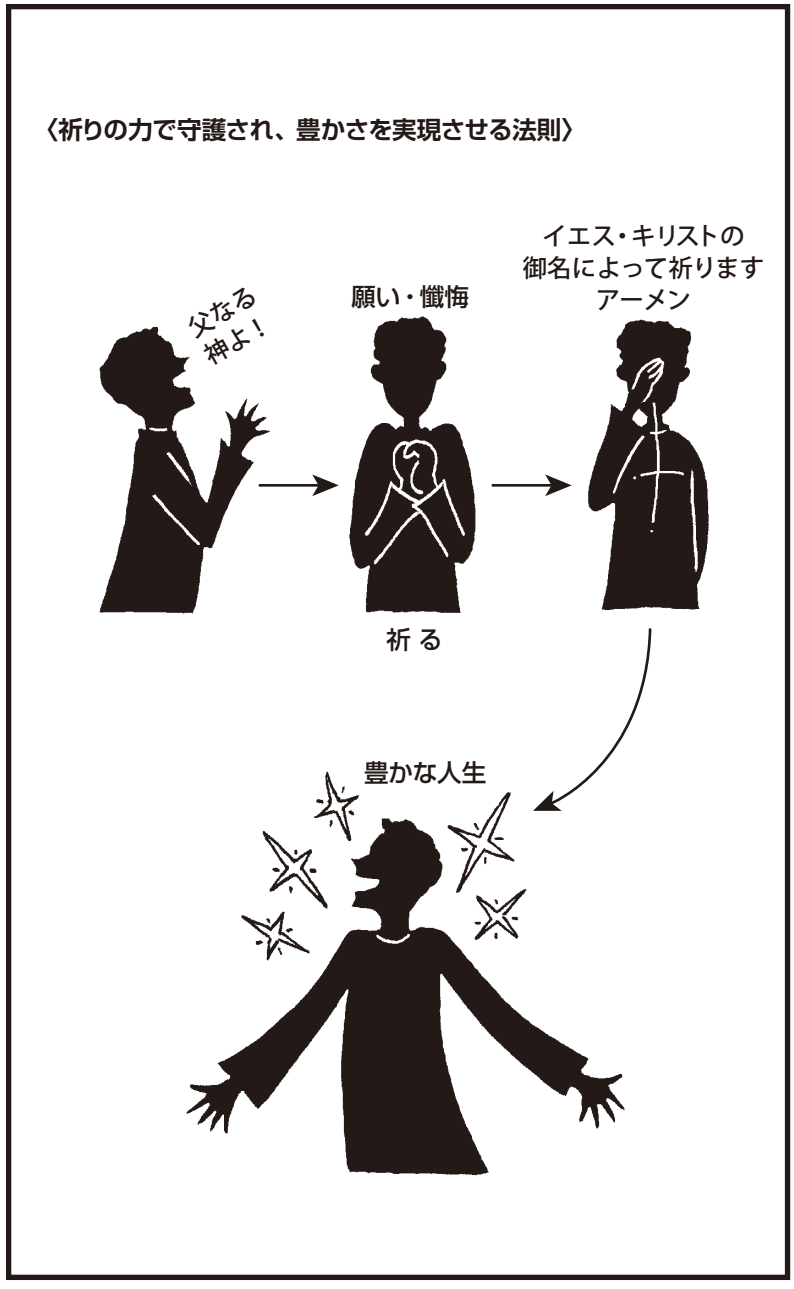
その翌日のことです。ある男性から牧師に電話が入りました。この男性は以前、短期間だけ教会に通ってから、それ以降はまったく来なくなっていた人でした。その男性はこう言いました。

「先生、ありがとうございます。実は昨日のことですが、私は思い悩んで耐え切れず、ついに自宅で自殺しようと決意していました。しかし、死ぬ前にもう一度だけ祈ってみようと思って、『神様、もしあなたが本当に生きておられたら、そして私が自殺してはいけないと思われるなら、どうか、しるしを与えてください』」

私がこのように祈った直後のことでした。先生、先生の携帯から電話がかかって来ました。怖くて受けられませんでしたが、携帯の着受け画面を見ると「全能の神」と表示されているではありませんか。

先生の教会名の「全能の神の幕屋教会」では、長すぎるから以前「全能の神」と登録してから、すっかり忘れていましたが、驚きました。私はもう自殺はやめました。

また、祈りは人を栄えさせます。非常に貧しかった男性の証しです。彼は昭和16年に大阪で生まれ、第二次世界大戦が終わった少年時代は日本から韓国へ家族に連れられて移住しました。しかし、その帰りの船が嵐に襲われて、対馬沖で転覆。すべての所持品を失いながら九死に一生を得て、韓国の両親の故郷に到着。しかし、日本で稼いで韓国の親戚に送金して預けていたお金は一切返して



もらえず厳しい状況に置かれました。その後、朝鮮戦争が勃発し、日本人が建てた空き寺を避難所に疎開生活。そこでは両親と兄弟姉妹5人の合計7人が、ひとまをダンボールで間仕切りした部屋で生活。このような家族がそこには10世帯も一緒に生活していました。中学卒業後は、ポン菓子を売りながら夜間高校に通い、卒業後はソウルのスラム街で日雇い現場で労働を始め、そのお金で高麗大学を受験して合格。学生時代は清渓川の市場で早朝の仕事をしながら苦学生活。その頃１９６４年に日韓協定の調印に反対する学生運動の主宰者となり、西大門刑務所に実刑６ヶ月間の収監。出所してひと月目に苦労した母が突然、亡くなりました。母は毎朝４時に起きて祈り、教会の早朝祈禱会にも参加してから仕事に出かけ、職場の市場では閉店後に周囲の清掃を自発的に行う敬虔なクリスチャンでした。

彼は学生運動の履歴から就職活動が難航しましたが、ようやく23歳で道が開きました。就職先は「現代建築株式会社」。当時、従業員数十名だったこの会社は、12年後の35歳の時には彼が社長となり、47歳の時には会長に就任しました。今では韓国の一流企業です。

その後、サラリーマン時代、一零細企業を一大財閥まで引き上げた手腕が認められて、国会議員となり、２００２年にはソウル市長に当選、清渓川復元工事など数々の業績を残しました。彼は市長時代も教会の礼拝は欠かさず、日曜日には教会の駐車場係となって奉仕し、教会員が全員教会に入るのを見届けてから、最後に入ったそうです。そして教会学校でも子供たちの教師となって聖書を教える奉仕を続けていました。その後は、念願の大統領選挙に出馬しました。結果、５３１万票

差という記録的大差をつけて当選しました。経済大統領と国民の期待を背にした李明博大統領の出世の背後には母の祈りがありました。母が亡くなってから不思議と家族全員がイエス・キリストを信じる熱心なクリスチャンになったそうです。そして李明博大統領自身もよく祈る人となり、当選以降、２０１０年、公約通り自宅以外の全財産を貧しい人々と、弱い人々のために使って欲しいと寄付しました。日本円で約20億円です！　コリアンドリームを実現した李明博大統領の成功の陰の功労者は、とりなし祈る母にありました。

Bible: the law of success 14

賛美歌を流すことで事業を繁栄させる法則

――「70件連続放火魔の逮捕直前に私が実行していたこと」

イスラエルのサウル王は悪い霊に悩まされ、精神錯乱状態で叫んだり、わめいたり誰にも手に負えない不安定状態が続きましたが、不思議とダビデが傍らに呼ばれ、竪琴で上手に賛美をささげると、その場で王は落ち着きを取り戻して平安になりました。

賛美の力は病める心と体に大きな癒し効果があります。

賛美の曲をいつもＢＧＭに流した結果、しいたけ栽培業者では良質のしいたけがたくさん安定的に収穫できるようになり、養鶏場では鶏が良質な卵を多く生むようになり、酪農業者では牛が上質な牛乳を多く出すようになったという確かなデータに裏付けられた研究報告があります。

賛美は人体を始め、あらゆる生き物に神様の臨在を解き放つ祝福と繁栄の秘訣です。

心騒ぎ眠れぬ夜は賛美をささげて心を癒してください。

10年くらい前のことでしたが、私の住む街が一冬に連続放火70件以上という不審火事件がありました。

当時、夜毎に消防車のサイレンを聞いていましたが、その火の粉がわが身に降りかかるまでは、真剣な祈りを捧げていませんでした。

不審火が通算70件くらいの頃、次に放火されたのが私たちの教会が入居している雑居ビルでした。

教会の開設当時ビルの3階に入居していましたが、6階のテナントが廊下に置いていた化粧品入りの大きなダンボール箱に放火されました。

その日が土曜日の深夜で翌日の主日礼拝の日は早朝から驚かされました。雑居ビルの入り口には黄色い「立ち入り禁止　ＫＥＥＰ　ＯＵＴ」と交互に書かれた細長いテープが幾重にも張られ、消防車が待機していて人々が集まっていました。

特別に関係者として建物内に入れてもらいましたが、6階全室で放水したため、階下は階段も廊下も室内までも水浸し状態でした。

礼拝堂は後ろ半分が浸水して、鎮火直後の独特な嫌な焦げ臭さが残っていました。その後は教会員の立ち入りは許可されましたが、漏電チェックができていないため電気のない薄暗さの中、集まった教会員にマイクもなく叫んでメッセージしました。

そしてその日の夜、私は今回の放火事件に無関心だったことを悔い改めて真剣に祈りました。

「主よ。礼拝を妨げたこの悪い放火魔を捕まえてください。イエス・キリストの御名でこの立川の地域に働く悪魔を縛る！　出て行け！」

それから十字架の御もとで感謝の祈りを捧げて神様に信頼しました。

そして神様に賛美の歌を捧げました。

私が陽気で気分がいいからそうしたのではなく、賛美は音符のついた祈りであって、悪魔の働きを打ち壊す、巨大な戦力だからです。

気の毒な6階のテナント！　あれほど一生懸命、事業をしていたのが、一瞬の放火ですべてが台無し。人生とはまさに、そんなものか！　どんなに誠実に努力して働いても悪魔が働いて滅ぼされ

たらすべてが皆無！　これではあまりにもかわいそう。あまりにも理不尽です！　昔も今も私にできることは賛美して祈ることだけです。

すると翌日、ニュースに連続放火魔逮捕のよき知らせが飛び込みました。この放火魔は若い男でいつも放火の手口は同じで、丸めたティッシュペーパーに灯油を染み込ませたものに火をつけてから空き家を中心に投げ入れ、すぐに立ち去るというものでした。

計算すると私が教会でこの放火魔に対して真剣に祈った数時間後に警戒中の張り込み警察官に現行犯逮捕されていました。

後日、週刊誌にこの事件が大々的に報道されていましたが、その記事には犯人の若い男が「逮捕されてほっとした」と述べていました。

自分でも放火がやめられなくなって何かに駆り出されるように犯行を常習的に繰り返していたそうですが、過去70件以上もの放火に対して消防と警察と高松町内会で厳戒態勢の張り込みをしていたにもかかわらず、今までなかなか捕まらなかった狡猾な知能犯が教会でのただ一度の真剣な徹夜の祈りと賛美の数時間後に捕まっている。

この歴然とした事実を前に私は祈りを通じて働かれる聖霊の力強さを再認識したと同時に、自分とは直接関わりなき事柄への愛のとりなし祈りの欠乏を深く反省させられました。

というのはこの一連の放火事件で後半期に一人の人が亡くなられていたからです。もし、私がも

〈賛美歌を流すことで事業を繁栄させる法則〉

祈りと賛美の力

実践的な力が
与えられる

っと早期に真剣なとりなし祈りを捧げていれば、あるいはここまで被害が拡大せず、その気の毒な人は死なずにすんだかも知れないと考えさせられました。

私たちは時代の見張り人、霊的には祈りの大祭司の務めがあります。

使命感を持って祈り賛美するとき、霊の世界では確かに不思議な目には見えない神様の力が働いて奇跡を起こし、問題解決が早期にできます。

奇跡を信じて共に祈り賛美しましょう。あなたのとりなし祈りは決して無駄ではありません。神様が全てを知り、祈りを聞いています。

失望せず、忍耐の限りを尽くして信仰で祈り、また賛美しましょう。

この世にはおおよそ3つの次元の力があります。

一つは筋肉の力を使って稼ぐブルーカラー労働者の力です。

もう一つは知力の力を使って稼ぐホワイトカラー労働者の力です。

一般的には前者より後者が社会的な立場が上で収入もよいと言われます。しかし、あなたが神様を信じればもう一つの物凄く実践的な力を特別に使えます。

それこそが信仰で生きる祈りと賛美の力です。

実生活で私たちは全ての人と同様に努力して生活しますが、自力だけで生きても神様からの賞賛はなく、むしろ神様によりすがって信仰で日々、祈りながら生きる人を神様は喜ばれ、探しています。

聖書のことばを握って悔い改めの祈りと信仰で天国に入ることを望んでいます。霊の戦いで祈りと賛美の力をもっと実生活に適用してください。

あなたはそれが出来る人です。すでに大きな力が聖霊によって与えられています。内なる聖霊の奇跡の力を祈りで解き放ってください。

神様は御自身に背を向けて自力で生きる人よりも、へりくだって弱さを認め、聖霊に頼って日々、生きる人を重んじられ喜びます。

強すぎてもいけません。

子供のように素直で単純に父なる神様を信じることが人間にとって全てです。十字架を圧倒的勝利の武器として誇り、悪魔の軍隊組織を徹底破壊して追い出しましょう。

Bible: the law of success 15

家系に働く呪いを早期発見して災いを解決する法則

――「ＤＮＡ遺伝子体質を超越する強力な呪いに勝ったヨセフ」

この世界には目に見える現実の努力結果だけでなく、時に不可視で予想外の不可抗力（人間の力ではどうにもさからうことのできない力や事態、天変地異など）もあります。聖書に出てくるイスラエルとアマレクの戦争時にも、丘の頂でとりなすモーセの祈りは「勝敗」を絶大に決定づけました。

まじめな戦闘における努力以外の何かが現実に重く働く、そういうことがあるのです。

「モーセが手を上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を降ろしているときは、アマレクが優勢になった。」（出エジプト記17：11）

また、テモテが持っていた「純粋な信仰」も親子三代のクリスチャンホームゆえに与えられた天然系の祝福で、親から子へ流れた霊的影響力の賜物です。

「私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。」（第二テモテ1：5）

これらはモーセやロイスから流れた他者への祝福ですが、反対に歓迎できない否定的な黄泉（よみ）と滅びの不可抗力も環境に働くことがあります。

「逃げる雀のように、飛び去るつばめのように、いわれのないのろいはやって来ない。」

（箴言26：2）

鳥が驚けば、当然逃げ去るように、呪いも原因があるからこそ、環境に災いという形で現れます。この場合、災いを招いた呪いのきずなを早期発見して取り除くことが大切な解決策です。起きた問題の背景に呪いのきずながあるならば、罪悪は悔い改め、恐れを締め出し、偶像は破棄したうえで断固としてその霊的影響力を断ち切らなければなりません。

イエス・キリストは罪の赦しだけでなく私たちの環境に働く呪いの問題をも解決する為に十字架にかかられたのです。その血潮の功績を無駄にせず、呪いを積極的に追放すべきです。

「ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」（第一ペテロ1：18、19）

ここに「先祖から伝わったむなしい生き方」とありますが、親子代々、同じ失敗や不幸など同じ種類の災いを家系に感じるならば、イエスの血潮によって家系に働く呪いのきずなを断ち切らなければなりません。

例えば親も子もひどい酒飲み、親も子もバクチ打ち、親も子も不品行、親も子も破産、離婚、暴力、窃盗……。

聖書では、アブラハムはその妻サラを対人関係の不要な恐れから妹と偽って、エジプトに寄留していましたが、やがて妻はアビメレク王に取り去られ、後日その偽りが暴露し、大失態と恥のうちにエジプトを追放されています。（創世記20：11）

ところがその息子イサクも成人以降、父アブラハムと全く同じ偽りを語り、全く同じように妻を取り去られ、その後も同じく妻であることが暴露され、エジプトから失脚しています。（創世記26：9）

彼ら親子は決して事前の申し合わせがなかったにもかかわらず同じような行動と失敗を体験しています！　不思議です。これがＤＮＡによる遺伝体質等を超越したそれ以上に強く環境に働いた霊的な呪いの力の結末です。

私たちが信じても信じなくても確かに家系に働く呪いがあります。

イサク以降もこの不思議な法則が代々下って働いています。父アブラハムと母サラの間に生まれたイサクと母ハガルから生まれたイシュマエルの関係です。彼らは同じ父ですが、母違いの兄弟です。聖書では**「そのとき、サラは、エジプトの女ハガルがアブラハムに産んだ子（イシュマエル）が、自分の子イサクをからかっているのを見た。」（創世記21：9）**と、この兄弟喧嘩の起源を記していますが、実はそれ以前に母親間でも**「サライ（サラ）が彼女（ハガル）をいじめたので、彼女はサライのもとから逃げ去った。」（創世記16：6）**というように、争いごとは世代を超えて同じように始まっていたのです。

さらに両者間の壮絶なバトルは歴史を超越して今でも、イサクの子孫自称ユダヤ人によるイスラエル軍と14歳年上の兄イシュマエルの子孫アラブ人によるパレスチナ解放軍との間で中東を舞台に延長戦に突入しています。

使徒の働きでは預言的にこの戦いを**「「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」（このガザは今、荒れ果てている。）」（使徒8：26）**と記されていますが、このガザの街こそパレスチナ自治政府の本拠地としてマスコミ報道されている戦争の止まない病める激戦地なのです。不思議に昔の母親同士の争いが、後の子供同士でも争いとなって、今日までもその子孫の自称ユダヤ人とアラブ人の間で戦争が起きています。親と同じバトル行動という負の遺産を代々受け継いだという感じの根深い確執の呪いです。

他に、この世代を超えて働く不思議な因縁のような力のことを端的にかつ摩訶不思議に現した家系はヤコブ家です。

ヤコブは先のイサクの息子で、その名の通りペテン師のようにずるい性格から父をだまし、兄をも出し抜いて長子の権利を獲得した男です。

ところが、その一連の不正行為の際、自らと子孫たちに呪いを招いたことが分かる確かな物的証

拠が含まれていました。

この話は「恐怖！　衣類にまつわる呪いの物語」です。

「それからリベカは、家の中で自分の手もとにあった兄エサウの晴れ着を取って来て、それを弟ヤコブに着せてやり、また、子やぎの毛皮を、彼の手と首のなめらかなところにかぶせてやった。」（創世記27：15、16）

高齢で視力が衰えてよく見えなくなった父イサクをだまして、長子の権利を横取りしようとした弟ヤコブは兄エサウに成りすまして、兄の晴れ着と子やぎの毛皮を使って見事に偽装工作しました。年齢と共に視覚と聴覚は鈍っても臭覚と感覚は、さほど鈍りません。父イサクは自らの臭覚と感覚に頼って見事にだまされました。

「ヤコブが父イサクに近寄ると、イサクは彼にさわり、そして言った。『声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。』ヤコブの手が、兄エサウの手のように毛深かったので、イサクには見分けがつかなかった。…イサクは、ヤコブの着物のかおりをかぎ、彼を祝福して言った。『ああ、わが子のかおり。主が祝福された野のかおりのようだ。…』」（創世記27：22―27）

ヤコブはまんまと長子の権利を受けるただ一度の按手の祈りをだましとり、将来、父の相続財産の三分の二が長子のものとなる約束が果たされたかのように思われましたが、罪の行為は割に合わず呪いがつき物です。その後のヤコブ家には衣類に関する災いが連発し、ヤコブ自身、行なったとおりに行ない返される羽目となりました。

ヤコブは兄から憎まれたことを知り、その後、おじのラバンの家で逃亡生活が始まりましたが、与えられた仕事は羊飼いです。

この段階では誰もが気付かない軽レベルですが、実に羊の毛を刈り、後にそれは加工された衣類になるということから、これも一種の衣類に関する呪いの始まり、題すれば「衣類のために仕えるヤコブ」です。

おじのラバンも幾度も報酬を変え、ペテン師はだましたり、だまされたりしながら20年が飛び去りました。

その呪いは「親族にだまされるヤコブ」です。

やがて二つの宿営を持つ富豪として郷里に帰ったヤコブは今や12人の子供たちに恵まれ、老後を安泰に向かえると思えたそのときです！

逃亡生活20年＋子供たちの成人約20年、合計約30～40年という長い年月を超越した過去の呪いが今ついに復活稼動しました。

「彼らはヨセフの長服を取り、雄やぎをほふって、その血に、その長服を浸した。そして、そのそ

でつきの長服を父のところに持って行き、彼らは、『これを私たちが見つけました。どうか、あなたの子の長服であるかどうか、お調べになってください。』と言った。父は、それを調べて、言った。「これはわが子の長服だ。悪い獣にやられたのだ。ヨセフはかみ裂かれたのだ。」ヤコブは自分の着物を引き裂き、荒布を腰にまとい、幾日もの間、その子のために泣き悲しんだ。彼の息子、娘たちがみな、来て、父を慰めたが、彼は慰められることを拒み、『私は、泣き悲しみながら、よみにいるわが子のところに下って行きたい。』と言った。こうして父は、その子のために泣いた。」（創世記37：31―35）

ヤコブは子供たちから見事にだまされました。本当は生きている末の子ヨセフが死んだかのように偽装工作する為の長服、実にこの長服こそヨセフにだけに着せてあげた父の偏愛を一番象徴する衣類であり、他の11人の兄たちのねたみの原因です。さらにはヨセフの死を無言に語る確かな血に染む物的証拠でもありました。

ヤコブは昔、父と兄という家族を衣類でだましたけれど、自分が父になった今、同じように子供たちという家族から同じく衣類でだまされたのです！

しかも長袖部分という場所まで驚異的に一致しています。

そのころのことですが、創世記38章ではヤコブの子供の一人ユダも家族である嫁のタマルからだまされています。その理由も彼女がやもめの服を脱ぎ、ベールをかぶって遊女のなりに着替えていたので判別できなかったことによります。ヤコブ家の衣類に関わる呪いはまだ続きます。

ヤコブ家の呪いはなんと国が離れていても同一家系内で猛威を振るいます。エジプトのポティファルのもとに売り飛ばされたヨセフ。

彼は生きてはいたけれど死の連続のような獄中生活。そのきっかけも衣類関与です。

「ある日のこと、彼が仕事をしようとして家にはいると、家の中には、家の者どもがひとりもそこにいなかった。それで彼女はヨセフの上着をつかんで、『私と寝ておくれ。』と言った。しかしヨセフはその上着を彼女の手に残し、逃げて外へ出た。彼が上着を彼女の手に残して外へ逃げたのを見ると、彼女は、その家の者どもを呼び寄せ、彼らにこう言った。『ご覧。主人は私たちをもてあそぶためにヘブル人を私たちのところに連れ込んだのです。あの男が私と寝ようとしてはいって来たので、私は大声をあげたのです。私が声をあげて叫んだのを聞いて、あの男は私のそばに自分の上着を残し、逃げて外へ出て行きました。』彼女は、主人が家に帰って来るまで、その上着を自分のそばに置いていた。」（創世記39：11―16）

こうしてヨセフはしばしの年月を獄中で囚人服にまかれたことでしょう。

時は流れ、やがて濡れ衣も囚人服も取り去られ、国務総理に昇進したヨセフとエジプトの穀物を

買いに集まった兄弟たち。彼らが当初、通訳越しに語る国務総理ヨセフを末の弟と判別できなかったこともまた王権ある衣類をまとったその雄姿のゆえだったでしょう。

ヨセフは見事に家系に働く呪いのきずなと信仰で戦って勝利し、王服を身にまといましたが、もしそうでなかったならば、私が思うに、ヨセフはおそらく小さな衣料品販売店か何か衣料品製造工場でも開業して失敗し、倒産以降、土くれの山のように流行遅れの衣類の在庫を抱えて狭くなった室内に一人わびしく座っていたのではないでしょうか。呪いってそういうものです。

父ヤコブから始まった衣類関連の呪いが世代と国境を超えてまでも同一家系内に生きて働いていた！

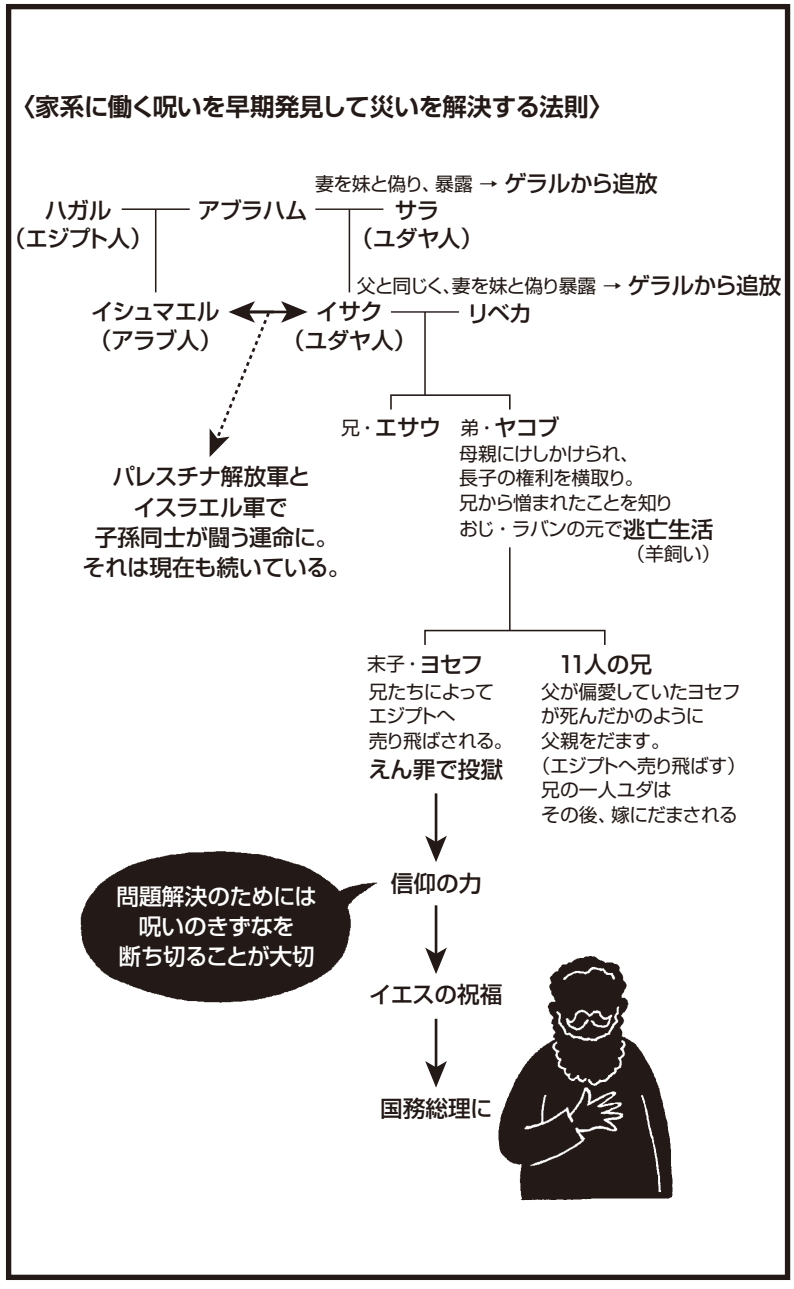
あなたの家系は大丈夫ですか？　思い当たるふしがありませんか？

うちには代々この問題があるとか、代々同じ弱点や失敗があるとかです。

この現実に目を覚まし、私たちはイエス・キリストの御名と血潮で家系の呪いと戦わなければなりません。特に誤って呪いを自らと家系に招く発言や行動は絶対禁物で自粛すべきです。

創世記27：13では母リベカが迷う息子ヤコブを大胆に勇気付け、兄の長子の権利をだましとるよう勧めていましたが、その際リベカが語った言葉はその後の彼女の人生で見事に成就しています。

「母は彼に言った。『わが子よ。あなたののろいは私が受けます。ただ私の言うことをよく聞いて、行って取って来なさい。』」（創世記27：13）



その後、舌の根も乾かない同じ創世記27章で彼女は夫にこう告白しています。

「リベカはイサクに言った。『私はヘテ人の娘たちのことで、生きているのがいやになりました。もしヤコブが、この地の娘たちで、このようなヘテ人の娘たちのうちから妻をめとったなら、私は何のために生きることになるのでしょう。』」（創世記27：46）

リベカが引き受けた呪いとは、本人には予想外の対人関係のもつれ、特に嫁姑の確執問題で死ぬほど辛いという形で現れています。呪いとは罪人にとってこのようにかく身近な家庭的領域のことで極めて現実的です。誤って呪いを招く行動や発言をしてはいけません。

人の呪いを「私に任せなさい！」と胸を張って大胆に引き受けてもいけません。とても負えませんから。

なんと！　イエスを当時、十字架にかけた全ユダヤ人の発言も同様に呪いを自ら招き入れる問題発言でした。

「すると、民衆はみな答えて言った。『その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい。』そこで、ピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスをむち打ってから、十字架につけるために引き渡した。」（マタイ27：25、26）

そのときから約40年が過ぎて、当時の「子どもたち」が大人になったころ、AD70年に呪いが現実に稼動し始めました。ローマ軍によるイスラエル総攻撃です。陥落する炎の城内から捕虜となって連行された不幸なユダヤ人たちこそ約40年前イエスを十字架にかけた際、父たちが「その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい。」と叫んだ彼らの子どもたちでした。

さらには近代ではアウシュビッツ収容所におけるユダヤ人大迫害、将来は黙示録7章のユダヤ人12部族の殉教。子どもたちの為にも誤った発言と行動で呪いに関与してはいけません。

「思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。」（ガラテヤ6：7、8）

蒔いた種の種類に応じて収穫を刈り取るように、人は必ず行ったとおりに自分にも行なわれる霊の世界の法則があります。

他人に良いことをすれば、やがて良いことが返り、悪いことも同様に災いとなって返ります。ヤコブが衣類で家族（父と兄）をだましたので、後に自分も衣類で家族（子供たち）からだまされたのです！

「主の日はすべての国々の上に近づいている。あなたがしたように、あなたにもされる。あなたの

報いは、あなたの頭上に返る。」（オバデヤ1：15）

私は真っ向から働く呪いを受けて苦しめられたことがあります。

私が十代だった頃、妹と喧嘩して勝ちましたと言うか、一方的ないじめであったようです。

その晩、私は金縛りになり、ひどい幻を見ました。私の実家の廊下の吹き抜けに当たる広い空間で、私が長い直線階段の一番下にいて、妹が上の階段上の踊り場廊下に立っていました。

妹の姿は冷酷そうで恐ろしく、真っ白な顔に不気味な幽霊の顔をしていて、死んだ人が着るような白くて長い衣を身にまとって白い帯もしていました。

幻の中で妹に上からにらみつけられながら、私は「これは妹の幽霊だ！　確かに彼女は死んだな、死んだ」とそう思いました。

息も苦しい金縛りがやがて解け、それが現実のことではなく、夜の不気味な幻であることを知りました。翌朝、早い時間に私は妹の部屋をノックして問いかけました。

コンコン「おい！　いるか？」「うん」

開けてみると確かに生きて、ベッドの中で動いていました。

内心「生きている。昨日のいじめを苦に自殺してはいないな」と思いホッとしました。

そこで「お前、夕べ俺に何かしなかったか？」と質問すると

「ううん。何もしていないよ」とあっさり答えが返ってきました。

しかし現実はその晩、霊的な動きが現実にあったようです。これを知ったのはその後、何年もたって妹が救われて聖霊を受けたクリスチャンになった、その日のことです。

その日、妹は何年ぶりに過去のこの日の罪を告白しました。

「実はあの日、何もしていないと答えたけれど、本当は魔術の本を見ながらお兄ちゃんに呪いをかけてみたんだ」

すこし、ぞっとしました。呪いの力は本当にあります。

弟子のペテロは三度、イエス様を裏切って主の御心をひどく傷つけましたが、後にこの体験も同様に三度、ペテロ自身にはね返ってペテロの心を痛めています。

「イエスは三度ペテロに言われた。『ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。』ペテロは、イエスが三度『あなたはわたしを愛しますか。』と言われたので、心を痛めてイエスに言った。『主よ。あなたはいっさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。』」（ヨハネ21：17）

これは自らの偽りゆえに傷つき汚れたペテロの心を癒すうえで必要な愛のワンステップでしたが、ペテロにとっては心の痛みを伴う荒療治体験でした。

「あなたがしたように、あなたにもされる」

この法則は使徒パウロでも同様です。彼は他の弟子たちより格段、試練と迫害が厳しく多い人です。

「私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渇き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。」

（コリント第二11：23―27）

なぜ？　理由は救われる以前のひどい暴力的迫害生活にあります。聖書には迫害者であったころのパウロのことがはっきり書かれています。

「さてサウロは、なおも主（しゅ）の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。」（使徒9：1、2）

「私はこの道を迫害し、男も女も縛って牢に投じ、死にまでも至らせたのです。」（使徒22：4）

「主よ。私がどの会堂ででも、あなたの信者を牢に入れたり、むち打ったりしていたことを、彼らはよく知っています。また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私もその場にいて、それに賛成し、彼を殺した者たちの着物の番をしていたのです。」（使徒22：19、20）

「すべての会堂で、しばしば彼らを罰しては、強いて御名をけがすことばを言わせようとし、彼らに対する激しい怒りに燃えて、ついには国外の町々にまで彼らを追跡して行きました。」（使徒26：11）

ダビデ王の場合はどうでしょうか？　ダビデ王はウリヤの妻バテシェバと姦淫の罪を犯し、策略のもとで夫を殺害した後、彼女を自分の妻としましたが、主は預言者ナタンを遣わして宣告されました。

「主はこう仰せられる。『聞け。わたしはあなたの家の中から、あなたの上にわざわいを引き起こす。あなたの妻たちをあなたの目の前で取り上げ、あなたの友に与えよう。その人は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。』」（第二サムエル12：11）

ダビデ王もまた、行なったとおりに行ない返されるという預言です。

しかし、その成就を見るまではかなりの年月が流れています。

預言1週間後にバテシェバによって産まれた子供は死に、その後ダビデの子アムノンは妹タマルを恋い慕って悲惨な姦淫の罪を犯しました。

この事件の2年後、妹が兄からはずかしめを受けたことへの復讐の為、兄弟アブシャロムはアムノンを殺害し、それ以降3年間の逃亡生活に入りました。父ダビデが呪われた姦淫と殺人の罪悪の種を蒔いたため、後に子供たちの中で同様の姦淫と殺人の実が結実し、ダビデは苦しみを刈り取っているのです。

さらに後2年が過ぎるとアブシャロムはイスラエル人の心を盗み始め、さらにそれから4年たつとアブシャロムは事前の計画通り父ダビデに企てた反逆を実行しました。

「アブシャロムがヘブロンで王になった！」

叫ぶ謀反者たちの前を力なく泣きながら逃げる去るダビデ王。その際、アブシャロムにくみする者がみな、勇気を出すようにダビデの妻たちと寝るようにと助言を受けたアブシャロムはその言葉通りにこれを実行しました。（第二サムエル16）

こうして、ナタンによって語られた預言「…その人は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。」が、この日、見事に成就したのですが、計算すると預言成就まで最低でも7日（第二サムエル12：18）＋その後（13：1）＋満2年（13：23）＋3年の間（13：38）＋2年間（14：28）＋その後（15：1）＋4年（15：7）＝十一年以上もかけて成就しています！

蒔かれた種の実がなるまで時間がかかるようにある種の預言成就は時間がかかって実現します。それにしても11年前の罪悪に対する呪いを今刈り取る。なんともわりに合わない話です。

今では恵みの新約時代のためこのようなサイクルはもっと短時間で終息しますが、原則的には同じ流れがあります。イエス様の御前、誰でも罪を悔い改めたら即座に赦されます。

しかし次に、その行なった罪ゆえの報酬が災いという形で現れる場合があります。呪いのきずなを即座に断ち切らないで、放置しておくと、その後、呪いが子孫に爆発的にあふれ流れるケースさえあります。

ダビデが奪ったバテシェバから産まれたソロモンがまさにそれです！

彼は大したえらい王様になりました。

「彼には七百人の王妃としての妻と、三百人のそばめがあった。その妻たちが彼の心を転じた。ソロモンが年をとったとき、その妻たちが彼の心をほかの神々のほうへ向けたので、彼の心は、父ダビデの心とは違って、彼の神、主と全く一つにはなっていなかった。」（第一列王記11：3、4）

１０００人の女！　想像するだけでも恐ろしい生活。まさに父ダビデによって導入された姦淫の霊が直系の子孫ソロモンのなかで悪の大リバイバルです！

「主は、私の義にしたがって、また、御目の前の私のきよさにしたがって私に償いをされた。あなたは、恵み深い者には、恵み深く、全き者には、全くあられ、きよい者には、きよく、曲がった者には、ねじ曲げる方。」（第二サムエル22：25―27）

重要なことは現れ出た環境ではなく、心の持ちようです。心がきよく恵み深く正しければ神様も同様にきよく恵み深く正しく祝福してくれます。しかし心がいじけて、ひねくれていれば同様の幸とぼしい人になってしまいます。

これらは霊の世界に立てられた神様の御言葉の法則ゆえ、サタンにも適用されます。

サタンは今、人々を盗み、殺し、滅ぼしていますが、後に行なったように行なわれます。聖書は未来のサタンの滅びをも預言します。

「彼らを惑わした悪魔（サタン）は火と硫黄との池に投げ込まれた。」（黙示録20：10）

悪魔はギリシャ語でディアボロス（反抗者）**「私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者」（黙示録12：10）**です。

この訴えを無効にする力が徹底的な悔い改めと呪いを断ち切る祈りです。誰でもイエス様の御名で悔い改めたら完全に赦された義人です。

悪魔にこれ以上告発されて、災いを代々こうむる筋合いはありません。罪から来る報酬、災いを刈り取って弱り果てないよう、断固として呪いのきずなを断ち切り、声に出してこう宣言しましょう。

「私はイエスの血潮で赦された義人です。もう災いも呪いも私とは一切関係ありません。

罪を誘い災いをもたらす敵なる悪魔よ！　イエスの御名で命じる。出て行け！　二度と帰って来るな！」

さらには家系内に働く「先祖から伝わったむなしい生き方」と呼ばれる不信仰や偶像崇拝など暗黒の呪いのベールとそこに隠れて働く悪魔にこう宣言しましょう。

「私の父方、母方の家系に働く呪いのきずなをイエスの御名と血潮で断ち切る！

私は父なる神様の家族、天に国籍を持つ祝福された者だ！」

イエスは今、祝福だけを私たちに与えて下さっています。

だから将来のイエスと天国は祝福の園そのものです。

「ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。」（黙示録19：6）　アーメン！

あなたは祝福された豊かな人です。どんなに厳しい状況でも神様が助けてくれ、必要は必ず満たされます。信仰の力をもっと大胆に使いましょう。

Bible: the law of success 16

神様からの贈り物＝奇跡を現実化させる法則

――「不可能が可能へ！　年商億単位を実現させた事例」

私たちの教会も数年前にようやく教会堂建築ができました。
多摩都市モノレールに乗るとそこから見える通りに面した少し目立つ駅近物件です。
聖霊が２００８年度、教会堂建築の夢と幻を明確に預言したので、主日礼拝のときにこの熱いビジョンを大胆に報告して週報にも会堂建築のための献金受付先の金融機関の口座番号を期間限定で載せました。そして祈り、祈り、祈り。
実に新会堂建築献金は過去に一生懸命貯め続けていましたが、真面目な貯蓄の割には微力でした。
私の感覚では東京でそれなりの会堂を建てるには、どう計算しても億単位のお金が必要で、貸し渋りで企業が破綻する世界同時不況の時代に、仮にローンを組めたとしてもその数割の頭金部分だけで何千万円もの現金が必要でした。聖霊が奇跡を信じられる信仰の賜物を下さったので、幸い、心配することなく夜もよく寝ることができ、信じ続けました。
信じて、泣いて、また信じて心を収め、祈って涙をぬぐい、ただひたすら主が働かれるのを待ち続けました。夢と幻を描いて教会堂が立派に建てられているのを心の目で見つめ続けました。信仰の賜物はいったん働くと力強いです。祈り続けるうちに本当に不可能が可能に思えてきます。そうなると怖いものなしです。私たちの教会には特別な金持ちはいないのですが、ある姉妹が聖霊に動かされて大金を捧げられました。
聖霊によって動かされた最初の姉妹は私の本の読者でした。話は何年も前にタイムスリップしますが、私は日本フルゴスペル教団所属の純福音教会の牧師として著名なチョーヨンギ牧師が来日さ

れるときはいつも教会員とともに聖会に出席するのがお決まりでしたが、そのときだけは違いました。近郊で開催の会場に聖徒の皆様を送り出した後、ひとり聖会には行かずに、教会にじっと居残っていました。
特に私たちの教会で定期集会や聖会より大切な用事があったのではなく、聖霊が私にそのように導かれたので従順にそうしました。
教団の強く結束された総動員体制を持つ純福音の牧師としては多分異例のことです。やがて教会でひとり待ち望んで祈っているとその理由が分かりました。
一本の電話が教会に来ました。
「泉先生の本を読んだのですが…」
そこから話は始まり、後は個人情報ゆえあまり詳細は言えませんが、「過去の仕事上の医療ミスと思える事故から、今、死ぬほど悩んでいる」という旨の大変気の毒な女性でした。
祈りながら力の限り励まし、慰め、御言葉をお送りし、最後にお祈りをお捧げしました。
電話の向こうは悲しみ一杯の涙声でしたが、確かな信仰の応答がありました。
何年も前のことです。今、すっかり心癒され元気一杯になったこの姉妹は毎週私たちの教会に来られる奉仕者となって今回、主日礼拝の教会建築メッセージを受けて真面目に蓄え続けていた生涯のやもめの２レプタを大胆に捧げる献金第１号となったのです！
これを突破口に献金のブレークスルーが始まりました。

まさに献金のリバイバルでした。

毎週、毎週の主日礼拝における献金額が通常よりはるかに多く捧げられ続け、「このままではお金持ちになる」という前に必要経費が二ヶ月で満ちるとピタッとストップしました。ありがとうございました。

本当に神様の奇跡とお恵みで四階建ての新しい教会が完成しました。

個人情報がからむ献金ゆえ多くは語れませんが、一つ一つの献金に確かなドラマがあって毎度、感動あふれる涙の中での集金でありました。

他にも私が感動した献金者に敬虔な聖徒の親子も大きく捧げてくださいました。

本人は主日に献金袋の中に無名で捧げられましたが、捧げたのが誰であるかは直ぐに分かりました。本物の献金者だなと思いました。しかも本人はガンの病と闘っている最中の病弱なお体なのに！　また、ある聖徒は貧しい生活保護を受けている生活の中から心をこめて精一杯捧げてくださいました。また、ある聖徒たちは基礎工事の段階から携わって、建物が建つ予定の更地で、少しでも建設経費を節約しようと、業者の代わりに無給で働いて、残土を一輪車とスコップ、つるはし片手に大雨降る中、連日、泥だらけになってトラックの中に運び出して整地していました。本当に教会建築は涙がたくさん出ます。今も感動で涙が出ます。

特に心打たれたことの一つは、宣教師である私の家内までつるはしを振り回して土掘りに参加した姿です。

初めて見た力ない女性がつるはし振りかざす姿、力ある男性たちの半分も進まないのに、当然制止したけれど本人は黙っていられず、疲れた彼らに代わって働いた姿、私は生涯、忘れられないでしょう。

「カツン！　カツン！　私にも、できるよ。カツン！」

神様の教会はいつでも隠れた愛の犠牲と涙を土台として建てられます。

私たちの教会堂がようやく完成して一息ついた頃、問題が浮上しました。

「この建物にはエレベーターがない！　階段だけではちょっと」

ごもっともなご指摘でした。教会員には毎週、車椅子で来られる方、足の不自由な方、高齢な方がおられ、確かにエレベーター設置は完全に神様の御心と思いました。しかし！

もうお金がありません。奇跡的に4階建ての教会が建ち、新車も与えられ、その他、様々な経費をたくさん支払い終えて…これ以上どんな奇跡を期待すべきでしょうか。

エレベーター設置は厳しいです。

そこで思いついたのは、ローンを組んで借り入れるアイディアでしたが、このご時勢、世界同時不況のあおりを受けて宗教関係者への融資はかなり厳しいようです。

そこで私は変身して人目を避けて生涯初めての消費者金融の自動貸付コーナーに行ってみましたが、アンサーは50万円なら融資可能が一社、あとの3社は、融資さえ不可能でした。

50万円では足りないのであきらめて、今度は信販会社3社に申し込んでようやく1社が700万円、融資可能で、ただし保証人は二人つけるよう要求されました。

銀行と消費者金融の中間のような金利ですが、ないよりはまし、直ぐに返そう。そう思って申し込み、それから神様に信仰を働かせて祈りました。すると神様からのアンサーは私が全く想像さえしなかった別口の融資実行でした！

金曜の深夜、夜遅くまで教会で信販会社の融資実行を3日後にひかえて祈っていました。

「できればこの借金は避けたいけれど、他に手段はない。所持金ゼロ。おお主よ！　助けてください。私は呪われた民ではなく、祝福された民です！　天国の窓を開いて必要を満たしてください。」

実は教会で祈っているとき、すでにリアルタイムで並行して祈りの答えは「ザーザー」と恵みの雨のように現れていました。

この夜は翌日の昼頃までひどいゲリラ集中豪雨でしたが、な、なんと教会の新築の建物の屋根から夜通し、第二礼拝堂にあたる室内に雨漏りが始まり、階下までもひどくぬらしていたのです！

新築物件が築後、引渡したった1週間で大規模な雨漏り！　搬入直後のすべてが水浸し。大変ショックでした。

翌朝、雨漏りに気付いてからは、大忙し。急いで教会中の器を雨受けの器としてかき集めては並べて並べて、モップとぞうきん片手に行ったり来たりで大変でしたが、これが恵みの雨、祈りのアンサーでした。

教会員の話では珍しい季節はずれのゲリラ集中豪雨ということで、天候の履歴をネットで調べると確かにこのひと月で雨が降った日はこの日だけで他の日は全て晴れでした。しかし瑕疵（かし）担保責任適用期間の関係で来年ではなく、今すぐ雨漏りが発見されたことは不幸中の幸いです。

少量の雨では雨漏りに気付かなかったかもしれませんが、そこは大雨！

業者の言い逃れもできない完全な単純設計ミスで起きた事故でしたが、その後、驚いたことは、期待もせず、考えてもいなかったことでしたが、この件を通じて急きょ、信販会社のローン実行の前日に融資を受ける必要がまったく不要になってしまいました。

というのは、大金が損害賠償という形であちこちから入ってきたからです！　幸いにも対応が責任感ある立派な工務店で、社長も紳士でした。

雨降って、漏って、地固まる？

結果、振り返ると、全てを新品修繕してもなお、あまり、エレベーター設置費用全額分とプラスアルファーまで満たされました！

朝まで誰も気付かない深夜の季節はずれのゲリラ集中豪雨と新築物件の単純設計ミス。瑕疵担保責任期間内の事故発覚。

一流工務店の優秀な対応。数社の保険適用……どれ一つが欠けても実現しなかった奇跡でしたが……。まさか、こんな形で教会のエレベーター設置が無料で実現されるとは！　まさか、徹夜の祈りがその日のうちにリアルタイムで恵みの雨とともに答えられていたとは！

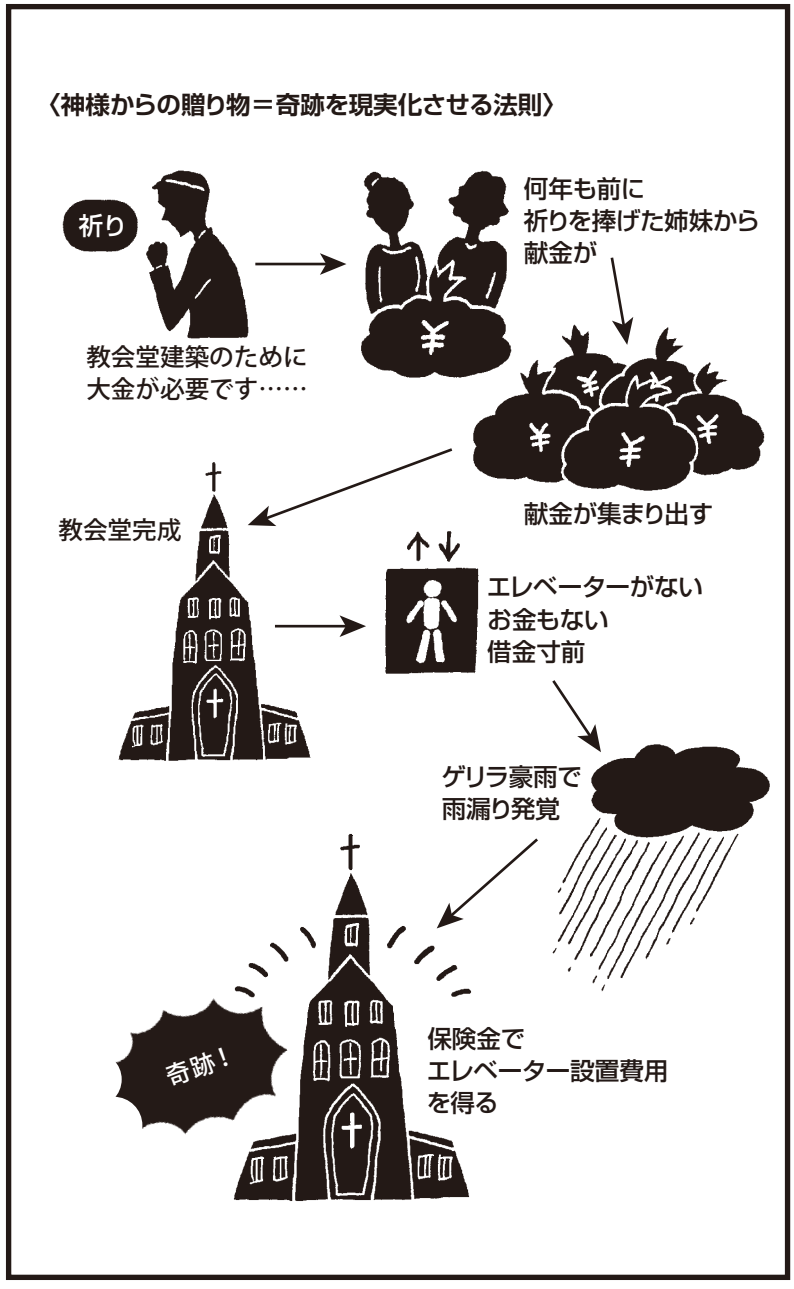
今では教会がテナントビルに入居していた頃、毎月120万円もの家賃を支払っていた日々が夢のようです。

「地を造られた主、それを形造って確立させた主、その名は主である方がこう仰せられる。わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。」（エレミヤ33：2、3）

「わたしは秘められている財宝と、ひそかな所の隠された宝をあなたに与える。それは、わたしが主であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることをあなたが知るためだ。わたしのしもべヤコブ、わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたをあなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書を与える。」（イザヤ45：3、4）

神様は私たちに「秘められている財宝と、ひそかな所の隠された宝」を与えると言われます。それは土くれの中に隠された宝、私たちを神殿として住んで下さる聖霊です。聖霊こそ霊的にひそかで最高の宝です。そして物質的な宝も多くは、隠された環境から与えられます。

聖書中、神様はしばし予想外の手段で人々の物質的必要を満たしておられます。荒野の食料難な環境で神様はイスラエル全体に朝には植物性タンパクのマナ、夕には動物性タンパクのうずらを与



えられました。

「しかし神は、上の雲に命じて天の戸を開き、食べ物としてマナを、彼らの上に降らせ、天の穀物を彼らに与えられた。それで人々は御使いのパンを食べた。神は飽きるほど食物を送られた。神は、東風を天に起こし、御力をもって、南風を吹かせられた。神は彼らの上に肉をちりのように、翼のある鳥をも海辺の砂のように降らせた。」（詩篇78：23―27）

まさか食料が空から大量に降ってくるとは、しかもマナは元来「御使いのパン」です！

渇いた時には水が、なんと岩から噴き出ました。

人間の予想外の手段で必要を満たされるユニークな神様です。

4人の病人がサマリヤの門の入口にいました。彼らが勇気ある決断を下してアラムの陣営に入りこむと、なんと、そこには誰もいません。神様が4人の足音をアラムの陣営に戦車の響き、馬のいななき、大軍勢の騒ぎへと天からミキサー調整して大音響で聞かせたので、彼らは恐れて逃げ去ったのです。この病人たちは、陣営の端に来て、一つの天幕にはいり、食べたり飲んだりして、そこから、銀や金や衣服を持ち出し、これを繰り返して短期に大金持ちになり、民衆にも知らせて飢餓のイスラエル全体をも救済しました。誰がこのような奇抜な手段でイスラエルの食糧難を解決すると想像できたでしょうか！

エリヤは荒野のケリテ川のほとりで朝に夕になんとカラスがパンと肉を運んできました。ヨセフとマリヤは東方の博士たちから予想外にも黄金、乳香、没薬（もつやく）をイエスの誕生祝としていただき、エジプトでの避難生活の資金源に役立てました。どうしてイエス様が5つのパンと2匹の魚だけで男5000人をも食べさせることができたでしょうか。しかも配給元は子供の小さなお弁当から。

主の御わざは時にスリリングで奇抜で「隠された富」のように誰も知らなかった予想外の働きが非常に多いです。神様もその使いも不思議な方です。

「主の使いは彼に言った。「『なぜ、あなたはそれを聞こうとするのか。わたしの名は不思議という。』」（士師記13：18）

人間的な常識の枠組みで信仰を型にはめて聖霊の働きを制約してはいけません。C・H・スポルジョンは、よくメッセージ前に「主よ！　聖なる無秩序を持ってこの礼拝に来てください」と祈っていましたが、神様の方法は多種多様で人間の優れた英知をはるかに超えた独創性と想像力と奇抜なアイディアの御計画があります。

たとえ、世界がどんなに不況に満ちた時代でも、神様は御自身の聖徒を特別に扱われ、特別な方法で守られます。

エジプト全域にかえるの群れ、ぶよの群れ、あぶの群れ、その他あらゆる種類の汚れた災いが起きても、神様を信じるヘブル人社会は全く無害でした。エジプト全域が真っ暗闇に包まれ、立ち上がることさえ出来なくなっても、ヘブル人居住地には光がありました！

エジプト全域に死の災害が満ちても、ヘブル人は一人残らず、やまいも癒されて、よろめくことなく元気に出エジプト出来ました。ハレルヤ！（出エジプト記11：1、詩篇105：37）

神様があなたとあなたの全家族、そして所有物すべてをあらゆる恐慌から守ります。御使いが特別戒厳令を敷いても守ります。必要とあらば予想外の手段を用いても、日毎の糧や今後の必要が満たされます！

私は神学校卒業以降、フルタイムで教会に献身して本腰入れてイエスの仕事を始めた頃、忘れられない不思議な夢を見ました。

真っ暗な環境の中で御姿は見えないけれど、光と共に神様の御声だけがはっきりと耳元に聞こえました。その御声は本当に私にこう語りかけて約束しました。

「あなたが私の仕事を献身して熱心に行なうので、私はあなたが心配しないように家族の仕事を祝福します」

当時、私が献身する前に母親から聞いた話では、

「今は時代の流れで以前ほど儲からなくなったので、お父さんの世代でこの仕事をやめて、会社と自宅を売って隣町の広島市に引越しして家を建てようかとも考えている」

ということで、教会でフルタイムの献身者となった私にとって、リタイアを考える親の家業を一切手伝わず、孝行しない自分なのでこのことは心配事の一つでもありました。

そんな私の心境を察して全てをご存知の神様が語られた約束は確実に時を得て成就しました。

その頃、私の2歳年上の兄が慶応大学法学部を卒業して東京の三井物産で働くエリート街道まっしぐらの人でしたが、思うところあったようで突然会社を辞め、実家の札幌に帰って来ました。そして働き出したのが父親の会社でした。この兄がよく頑張って父親と共に力を合わせて働き、会社が順調に繁栄していったようです。

今では札幌市内に6棟の不動産物件とガスの不動産利権多数を会社所有し、年商億単位まで稼ぐようになりました。

神様が語られた経済祝福の約束は確かで、時が来れば本当に実現するなあと学ばされました。

また、経済の祝福と並んで聖書に書かれている「わたしのしもべヤコブ、わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたをあなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書を与える。」（イザヤ45：4）という「肩書」についてのもう一つの約束ですが、イエスは

このように言われました。

「だから、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物でも古い物でも取り出す一家の主人のようなものです。」（マタイ13：52）

イエスはイザヤの預言成就者として弟子たちに確かに「肩書」を与えられました。イエス様を信じて献身的な弟子となるとき、誰でもすでに「天の御国の弟子」であり、イエスから「学者」と呼ばれます。

その勇姿は「自分の倉」のように大切な聖書から「新しい物」である新約聖書でも、「古い物」である旧約聖書でも、自由に取り出して引用し、御言葉を聖書全体からバランスよく解き明かせる「一家の主人のよう」に中心的な重要人物になれるということです。

福音伝道者は誰であれ、主の御前、立派な「肩書」ある「学者」なのです！

この世が認めても認めなくても事実、あなたは主にある優秀な「聖書学者」なのです。自信と勇気を持って下さい。世のいかなる知者も賢者も王様も悟れなかった偉大な奥義、イエス・キリストの十字架の死と復活の真理を私たちは知り、隠された宝の聖霊が内住されているではありませんか！　ものすごい光栄なことです。永遠につながる祝福です。

万一、あなたが失業し、「無学な普通の人以下だ！」と呼ばれたら、そのときこそ大胆にこう宣言してください。

「実は、私の本業は学者なのです！　今まで宝のように隠していてごめんなさい」

そして、おもむろに聖書を取り出して新旧約から大胆に語りだして下さい。あなたにはそれが出来ます！　神様があなたの正しい信仰告白を支持して、その場で適切な語るべき英知の言葉を次々と与えられます。

あなたは確かにイエス経由で天国公認の「天の御国の弟子となった学者」です！　ハレルヤ！

人への赦しによって働く〝愛と祝福〟を実感する法則

――「リンカーンが強力な政敵を大臣に大抜擢したのはなぜか」

２００８年12月８日、米海兵隊の戦闘機ＦＡ18Ｄホーネットがエンジン故障から住宅地に墜落、パイロットは直前に無事脱出したものの、機体は爆発炎上で民家２棟が全壊、住民４人が死亡という痛ましい報道がありましたが、実はニュースになりませんでしたが、彼らはクリスチャンホームでした。その日、韓国人移民の夫ユン・ドンユンさんは仕事の為、自宅不在でしたが、この事故で妻のユン・ヨンミさん36歳、娘のグレースちゃん１歳３ヶ月、娘のレイチェルちゃん２ヶ月、そして生後間もない孫の世話の為、渡米してきたばかりの母キム・スクイムさん60歳の合計４人が一瞬にして昇天となりました。どんなに悲しく厳しい試練でしょうか。

翌日、報道陣を前に記者会見で夫のユンさんはこう語りました。

「子供たちがもういないなんて信じられない。どうしたらいいのか分からない」と涙に言葉を詰まらせ、更にこう語りました。

「パイロットについては責めるつもりはないし、憎んでもいない。彼ができる限りの手を尽くしたことは分かっている。この事故のせいで彼が苦しむことのないよう祈ってください」

美しいイエス・キリストから受けた赦しの宣言です。

憎んで当然の事態に、赦しの心を持てた偉大な奇跡の人です。

その後、彼のところには米軍の慰謝料を始め、全国から莫大なお金が慰めとして送られましたが、ユン・ドンユンさんは生前、妻が携わっていた孤児たちを助ける社会福祉団体と教会に全額を寄付したのです！

語るにはかくも短く単純でも、自らに置き換えて熟考すれば、非常に難易度の高い赦しに富んだ美しい愛の犠牲です。

聖書には人への赦しが大きな祝福の鍵であり、赦さない心が成功と幸福を奪っていると教えます。イエスご自身も罪もないのに逮捕され、十字架にかけられたとき、彼らイエス様の手足に釘を打ち、その死を要求した群集と罪人たちを一切憎まずに赦して、十字架上こう祈られました。

「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」

（ルカ23：34）

当時、十字架を取り巻いていた群集には認められなくとも、イエスは神様から認められて、３日目には死人の中からよみがえり、信じる者に永遠の命を与える救い主となって今やイエスに付き従うクリスチャンは全世界に無数に満ちています。ですから私たちも不当な扱いを受け、苦しみを受けてもすぐに人間的な憎しみから復讐をせず、正しく裁かれる正義の神様にすべてをゆだねて祈り、時を待つことです。イエスのように父なる神様にすべてをゆだねきった生き方こそ心配もなく、平安で、実にすべての事が相働いて有益になる不思議な成功者の人生です。

これも実話ですが、ある会社員がこの厳しい治世に不況の煽りを受けてリストラ勧告を受けまし

た。当初の彼は不平をもらしてつぶやき、会社側の一方的な不当解雇を労働組合に持ち込んで徹底抗戦しようかと言うほど憤りがありました。しかし彼は聖書を読んでから怒りを内におさめ心を入れ替えました。そこにはこう書かれていたからです。

「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」（テサロニケ一5：18）

彼は謙虚になってこう考えました。「不当な扱いに対して抗戦して怒るのは誰でも出来る簡単なこと。むしろ皆の出来ないことをしよう。私のようなものを今まで雇用してくれていた会社には世話になった。有難い。感謝して、静かに会社を去ろう」

そして彼は自分の才能を認めず解雇を言い渡した会社を心底赦して、上司たちの前で最後の仕事と自らのデスクを綺麗に整理して片付け、出勤最終日には同僚すべてにあいさつと感謝の意を伝え、特に直属上司には感謝の言葉を丁寧に述べてから会社を後にしました。

しかし後日、彼の元には一通の手紙が届きました。リストラを受けた会社からでした。文面を要約すると、

「あなたのような有能な社員をリストラしたことを深く反省している。あなたが会社を去るとき、私たちは静かに見ていました。今まで通常のリストラ社員は必ず、いやみな言葉や悪態で会社を去るのだが、あなたは違った。その感謝を申し述べた勇気ある態度と心構え、私たち役員一同は深く感銘しました。実にこんな時代に感謝の心を持つあなたのような人材こそ、わが社を再建させる上で必要な逸材だ。同じポジションにとは言わない。昇格されたこのような好条件を提案するのでわが社にぜひ帰ってきてほしい」

彼は再びこの会社へ好条件で昇進されたポジションで再雇用されることになりました。不平不満が満ちるこんな否定的な時代こそぶつぶつ言わず、むしろ感謝していきましょう。

歴史上の偉業を成し遂げた人物はいつも個人的感情よりも国益を重視して全き心で働きました。ゆえにいつも攻撃者がいて、許しとの戦いがありました。誰であれ真剣に努力する人は迫害されます。人間のねたみは大人も子供も基本的に感情の表現法が巧妙に違うだけでいつの時代でも同じであり、成功者に対する悪口雑言（あっこうぞうごん）はつきものです。この戦いに勝てる強い心がなければ成功者にはなれません。すなわち明日の成功のためには日々、許す心を体得することです。あなたがやがて今以上に繁栄して有名になり、社内で一目置かれる逸材として頭角を現すとき、あるいは、意外なところからねたみも受けるでしょう。そして誰かに悪口雑言を受けたならば、その痛みは「有名税」を支払ったと思うべきです。

今の時代はインターネットを通じて瞬時にでも匿名で悪口を拡散できます。しかし何を言われても打ち負かされない強靭な心を持てば、あなたはすでに本当に強い成功者です。

仮に打ち消すことのできない一方的なブログや大型の掲示板に大々的に悪口雑言を投函されたな

らば、こう考えましょう。

「あれは公衆トイレの壁の落書きだ！」無視することです。

第16代アメリカ大統領アブラハム・リンカーンは歴代大統領中、最も人気の高い一人です。彼が当初、大統領に立候補したとき、政敵にステントーンがいました。ステントーンは選挙運動中、リンカーンをひっきりなしに中傷し、ありもしないことまでねつ造して、悪口雑言しました。

あるときにはリンカーンを「あのサルのような顔をしたやつ！」と呼びました。結果、リンカーンは念願かなって大統領に当選しましたが、その後、驚いたことにリンカーンはステントーンを陸軍大臣に任命しました。側近たちの猛反発の中、リンカーンは彼を大抜擢したことについてさらに、こう説明しました。

「彼は私の強敵です。ですから、より強い愛を送らなければなりません。

今は、南北戦争中です。私たちに必要なことは、ステントーンのような有能な人材です。国家・民族のためには、個人的な敵であるとの感情は克服しなければなりません」

後日、陸軍大臣ステントーンは誰よりも忠実な大臣となり、アメリカとリンカーンの働きの発展に大きく貢献しました。

やがてリンカーンが死去したとき。誰よりもリンカーンの死を悼み悲しみ、棺の前で号泣したのはステントーンでした。彼は言いました。

「この世の中で、もっとも偉大な星が去ってしまった」

西洋のことわざです。

「善に対して悪で仕返しするのは、悪魔の仕業である。悪を悪で報いるのは、人のすることである。悪を善で返すのは神様と同じ行為である」

Bible: the law of success 18

交際相手をよく選べ！　成功への鍵となる群れの法則

――「漫画家が集ったトキワ荘と日本の近代史の立役者たち」

成功者には成功者独自の行き方があります。成功者になりたければ、すでにその業界で成功した人物のところに行って弟子入りし、成功者から学ばなければなりません。もし失敗者から学べば、同じように失敗します。特に人は肉体と心以外に霊を持っている存在なので悪霊をこころに住まわせたような危険な霊的状態の人とあまり深く交流するのは危険です。よくよく自分自身の霊的状態に注意して、霊が汚されないように生きる。これが重要です。

以前、私たちの教会の集会である小学校の教員をしている女性が暴れたので悪魔追放の祈りをしました。教会には、稀ですが悪魔つきも来ます。そのとき女性は男のようなドスのきいた声で答えてこう言いました。

「俺たちをこの女から追い出すのか。いやだ。絶対に出ないぞ。俺たちはこの女に12年間も住んでいるのだから」

そこで私は「黙れ。イエスの御名で命じる。出て行け」と言うと、悪霊は答えて、

「いやだ。出て行かない」と言い、「出て行け」「いや。出ない」

これを永延と1時間半、繰り返し祈りました。

私も疲れ果てた頃、悪魔が女性の口を通じて言いました。

「俺たちも疲れる。大変だ。弱くなってきた。仲間を呼んでくれ」

そうして悪魔の名前を大声で叫ぶので、口をつぐませて、再度、

「イエスの御名で命じる。今すぐ出て行け」と命じると、悪魔は言いました。

「うわー。追い出されるぞ。

まだ二分の一残っている。

まだ三分の一残っている。

まだ四分の一残っている」と言いながら、口から汚い息を連続的に吐きながら、彼女に長年入って苦しめていた悪魔どもの軍隊が一匹ずつ順次出て行き、最後は大きく口を開けて、嘔吐しました。

教会のじゅうたんを汚して悪魔が出たあと、女性の顔はとても明るく輝き、涙ながらにこう言いました。

「先生。ごめんなさい。いけないと思いながら、大きな力に倒されて自制できませんでした。

私の中で悪魔たちが会話して相談するのがすべて聞こえていました。

そして私の口をとらえて、心にも無い失礼な事をいろいろしゃべらせたのです。本当にごめんなさい」

そこで私が「さっき悪魔が12年とか言っていたけど、12年前何したの？」と聞くと、

「はい。12年前に神学校のゲストスピーカーに外国の先生が来られました。私はそのアメリカの先生のメッセージが珍しいことばかり話して何か違う。おかしいなあと思いながらも聞き続けて、集会の最後に参加者への按手の祈りの時間がもたれました。

そこで前に出て按手の祈りをもらった瞬間、なんか風のような威圧感があって、変な霊をその時、

受けました。それ以降、私は占いに深い興味を覚えて、知らず知らずのうちに、教会で預言、預言と言いながら占いをしていたのです。今考えると、あの先生が占いの霊を持っていたのが移ったのですね」

悪魔とはこういうものです。気を付けて悪い霊や思想を受けないよう、近しい間の交際相手をよく選んでください。聖書には、

「滅びに至らせる友人たちもあれば、兄弟よりも親密な者もいる。」（箴言18：24）とあります。

確かに悪魔は人の中に入り込んで、成功できる有能な人材をいつの間にか人生の落伍者に引き落とす悪いものです。コブラにマングースのような天敵があるように人間にとっての天敵は人間ではなく、その背後に働き、互いにまどわし、互いに争わせる悪魔です。この霊的天敵の悪魔を追い出すと人は明るく成功人生に変わるという知識を知らずして、ただ努力だけでは成功できません。悪魔は人にくっついたり入ったりしますが、注意すべきは人間自体は決して悪魔ではないということです。

ある家庭で母親が熱心なクリスチャンだったので二人の小さな息子たちを毎週教会に連れて行き、礼拝を捧げて信仰生活を守っていました。

ところがあるとき、子供たちが母親に質問しました。

「お母さん。どうしてお父さんは僕たちと一緒に日曜日に教会に行かないの？」

母親はまだ信じていないお父さんの事情を子供たちにうまく説明しようと軽率に答えました。

「それはね。お父さんに悪魔が入っているからなのよ」

純粋で幼い子供たちはそのときから言われたことをストレートに信じて互いに会話するようになりました。

「そうなんだ。お父さんは悪魔なんだ」

その後、お父さんに対する子供たちの態度が変わり始めました。

お父さんが仕事を終えて家に帰ってくると二人はすぐにひそひそと話しました。

「来たぞ。悪魔が帰って来たぞ！」

お父さんが夕食をとっているときにも、

「あれ、悪魔がご飯を食べているぞ！」

その後は入浴中にも二人は集まってこそこそと、

「おい、悪魔がお風呂に入っているぞ！」

そして夜には

「悪魔が寝たぞ！」

またあくる日にはお父さんが会社に出勤するのを確認しながらひそひそと、

「よし、悪魔が出て行った！」

そんな生活が続く中、お父さんは子供たちの会話と異変に気づいて教会の牧師のところへどなり込みに来ました。

「先生！　あなたは教会でいったい何を教えているのですか！

私を家庭内ですっかり悪魔につくってしまって！」

牧師はひたすら平謝りでしたが、知恵を持って賢く振る舞わなければなりません。

18世紀の産業革命時にイギリスを始めヨーロッパ諸国では教会が非常に栄えていました。多くのクリスチャンが神様に祈ることを始めたので、次々と天地を創られた英知に満ちた神様から今まで人類が知らなかった発明発見のヒントが人々に啓示され、それを製品化したため世界は豊かになった歴史があります。その時期に彼らがあまりに多くの知的財産を神様から頂いて発明発見が多すぎたので、急きょこれらの情報管理のために、特許という新制度が確立されました。

成功者同士が互いに集まって情報交換しながらますます成功を極めるものであり、交際相手をよく選ばなければなりません。

「相談して計画を整え、すぐれた指揮のもとに戦いを交えよ。」（箴言20：18）

漫画家の世界でトキワ荘といえば、有名漫画家を多く輩出したアパートとして有名ですが、手塚治虫さんをはじめ、赤塚不二雄さんや藤子・F・不二夫さんなど、後になって世界的に著名になる漫画家たちが多く一箇所から輩出されたことは、決して偶然の一致ではなく、建物の地理的条件でもなく、彼ら漫画家志望で情熱を燃やす若者たちが互いに情報交換しながら、時にライバル意識を高めつつも相乗効果的にいい作品を出すようになったのです。

聖書にも**「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」（箴言27：17）**とあります。いい意味でのライバル意識を高めて熱意を起こさせる同業者の友を見出してください。

日本の近代史でも群れの法則が不思議と明確に現れています。

植物学者であり、実質、キリスト教伝道者でもあったクラーク博士のいた札幌農学校（今の北海道大学）では、後に著名となった内村鑑三（キリスト教思想家、文学者、伝道者、聖書学者）、新渡戸稲造（国際連盟事務次長、キリスト教教育者、倫理哲学者）、宮部金吾（植物学者）、岩崎行親（中高学校で英才教育指導）らが同級生であり、内村が単身上京して、有馬学校英語科に入学すると同級生には、三島弥太郎（後の日本銀行総裁）がいました。その後、有馬学校で1年学んだ後、東京外国語学校の下等第四級に編入しすると、そこには同級生に、末松謙澄（ジャーナリスト、政治家、歴史家）、天野為之（経済学者、ジャーナリスト、政治家、教育者、法学博士、衆議院議員、東洋経済新報社主幹、早稲田大学学長、早稲田実業学校校長）、佐藤昌介（北海道帝国大学初代総長、日本初の農学博士）らがいました。加藤高明（後の首相）も一級に在籍していました。

これらの人々の不思議なつながりは、西洋文化に憧れ、キリスト教に大志をいだき、向学心を持

って学んだことに、勝因はありますが、同時に彼ら著名人がいつもどこかで不思議と出会うという事実は、実は一つの巨大な法則の現れなのです。これを群れの法則と言います。

神様が初めにこの世界を創られたときに、語られた聖書の御言葉です。

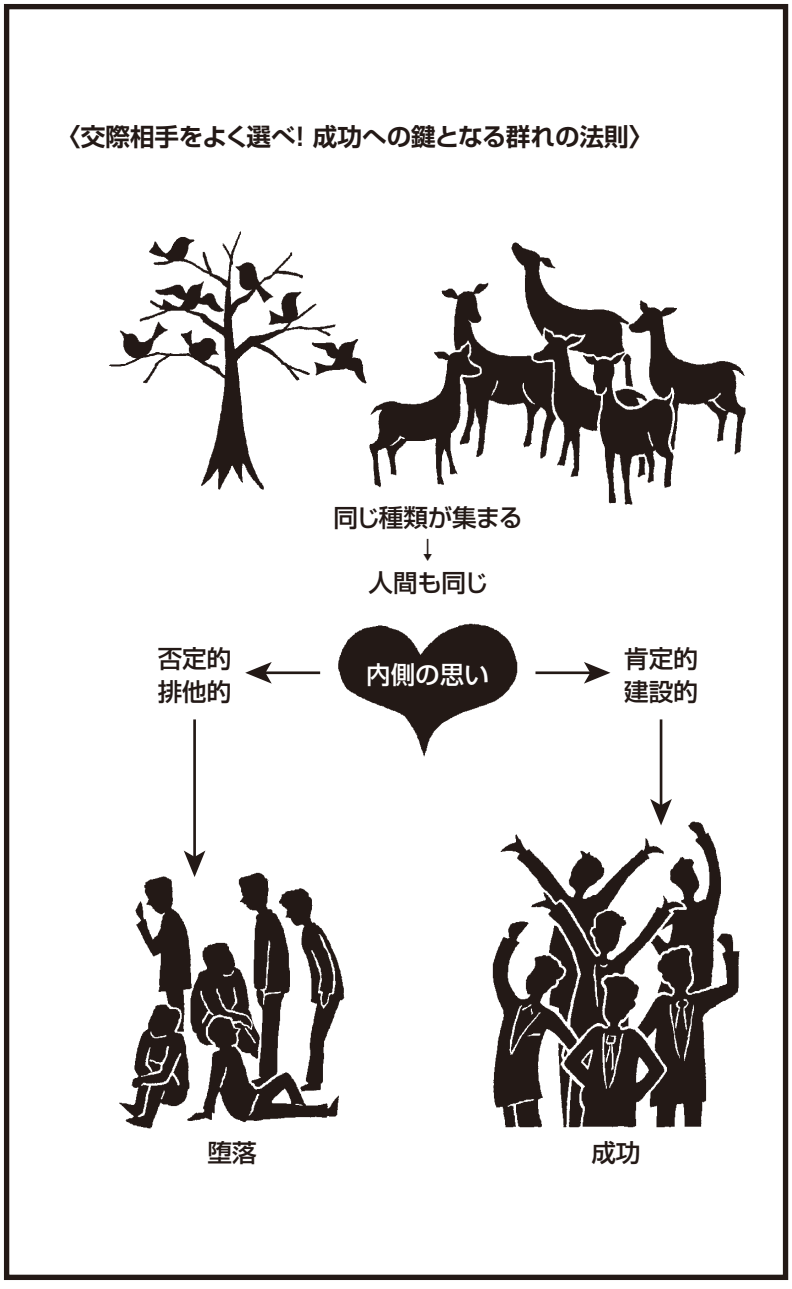
「神は仰せられた。『水には生き物が群がれ、鳥が地の上、天の大空を飛べ。』」（創世記1：20）

「神は『地は、その種類にしたがって、生き物、家畜や、はうもの、野の獣を生ぜよ。』と仰せられた。」（創世記1：24）

ここで神様が種類ごとに分別して群がることを命じられたとおりに、生物界は動いています。水槽でも海でもいつも同じ種類の魚が群がっています。空でも同じ種類の鳥が、自然界の野生動物までもすべて同種が群がっています。人間もそうなのです！

あなたが今、どのような思想を持っているのか、突き詰めれば、あなたがどのような霊的状態に置かれているのか、そのことが全てを決定づけると言って過言ではありません。もしあなたが、常時、否定的で、排他的で、非生産的な敗北者の思想と言葉を持つならば、そのように環境は働いて、滅ぼされてしまいます。気をつけてください。

もし、あなたが肯定的で、建設的、生産的な思想を持って、それにふさわしく語り、また振舞うならば、その通りに環境も動いて追いついて来ます。問題は環境ではなくあなたの内側の思いです。



聖書は「力の限り見張って、あなたの心を見守れ。」（箴言4：23）と言います。

心を守りましょう。決して悪い本を読んだり、悪い霊を持った人の講演会などに参加したりして心が汚されないよう、気を付けて力の限り見張って、あなたの心を見守ってください。

ホームレスはホームレス同士がなぜか友となって互いに集まり、昼間から酒を飲んでいるのを見たことがあるでしょう。何の一致ですか？　彼らにリーダーがいて、動員をかけているのですか？違いますね。内なる心です。社長は社長同士出会うものです。役員会や株主総会、経営向上のセミナー、時に飲み屋まで同じ！　平社員は平社員同士群がります。どうして互いに出会いますか？

これが群れの法則です。あなたの学生時代を思い出してください。まじめに勉強する人はまじめに勉強する、似たような人と仲良くなってお友達になっています。不良は不良同士集まって悪いことをします。芸能好きな人、スポーツ好きな人、いつもどの業界でも不思議と同じ人々が集まっています。ですから、もし私たちが否定的に社会を呪い、不幸の原因を政治や他人や環境にぶつけて、いつも不満をいだいて生きるならば、必ず同じような思想を持った不満に満ちた人々が集まってきて一緒になって堕落してしまいます。

逆にいつも感謝に満ちて清き正しい心と成功者意識を持っていれば、必ずあなたの周囲には同じ成功者意識を持った成功者たちが集まってきて互いに徳を高めあい、互いに成功者として引き上げながら、優れた情報交換のうちに成功へのノウハウの業界情報と英知をいただき、あなたを繁栄させることでしょう。

Bible: the law of success 19

命じ続ける言葉のエネルギーを活用する法則

――「余計な事物を削除したいときに状況を好転させる超パワー」

私たちが日常茶飯事に使っている言葉には不可視で大きな力があります。

この言葉を如何に発するかによって生き方が変わってきます。

聖書には言葉の能力について「**船を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。**」（ヤコブ3：4）とあります。これは口で告白を続ける言葉が環境に働いて、告白したとおりの望みの港へ私たちを導くという不思議な法則です。

カイコが口から白い糸を吐いて自らを巻き続け、やがては自分を取り巻く家として立派なマユダマが出来上がるように、人は口の告白が人生の家を築き上げます。

人生に革命的な変化と奇跡を起こすには、聖書中2万5000以上ある肯定的な祝福の約束の御言葉を信じて握り、私たちの発する言葉を変えることです。

イエスは死後4日たったラザロという名の青年に対して墓場で「**ラザロよ。出て来なさい。**」（ヨハネ11：43）と命じられると、ラザロは生き返って自分で歩いて墓から出てきたと書かれています。また、12歳の死んだ少女には「少女よ。起きなさい。」と命じられ、この娘も生き返りました。航海中、大嵐でしけがひどかったときも、イエスは荒れる波と風をしかりつけて命じました。「黙れ。静まれ。」すると風はやみ静かな大なぎとなって望みの港へ無事到着できました。

これらはすべて私たち人間も言葉の力で同じことが出来るというお手本です。決してイエスは嘆願して祈られたのではなく、ここでは命じられたのです。死者に対して。海に対して。一見、おかしく思えてもそうではない。本当に命じられた言葉には不思議なエネルギーがあるのです。聖書には繰り返しこの法則が書かれています。

私たちは信じたら実践あるのみです。

家内が昨年、「あの木に勝った」と言ってニコニコ喜んでいました。あの木とは隣接のファミリーレストランの敷地内にある道路側に面した大木のことです。私たちの教会の建物は伝道目的に壁にタイル張りで大きなイエスの絵を描いていますが、これが夏になるとお隣の大木に葉が大きく豊かに茂り過ぎて、道路から見上げるとせっかくの絵をちょうど覆い隠してしまうという難点がありました。

そこで家内は「夜中にこっそり、除草剤をまこうか、朝にこっそり、切り倒そうか」と冗談を言っていましたが、冗談以上の本気でした。その本気の実践は祈りの戦いです。彼女は言葉の力の法則をよく知っています。

第一に、この絵が目立つのは伝道目的だから存続が神様の御心。であれば第二に、御言葉を土台に祈る。約束の御言葉はこれだ。

「朝早く、通りがかりに見ると、いちじくの木が根まで枯れていた。ペテロは思い出して、イエスに言った。『先生。ご覧なさい。あなたののろわれたいちじくの木が枯れました。』イエスは答えて言われた。『神を信じなさい。まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、「動いて、海に入れ」と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。』」（マルコ11：20―24）

旧約に出てくる言葉は必ず形を変えて新約にも出てきます。これは申命記20：20に記され、律法的にもイエスの行動は完全でした。

「ただ、実を結ばないとわかっている木だけは、切り倒してもよい。それを切り倒して、あなたと戦っている町が陥落するまでその町に対して、それでとりでを築いてもよい。」

無花果の木は漢字の通り、花を咲かせず始めから、小さな穂を丸く結んでそれが大きな実となる木です。無花果のなる季節でなくとも小さな穂さえあればそれは、将来、実を結ぶしるしで、イエスはこれを五つのパンと2匹の魚のような種として増やすこともできたのに、この木には葉の他は何も無かったので、律法にも定められたとおり「実を結ばないとわかっている木」であるがゆえに、呪って「切り倒して」しまったのです。このようにしてイエスは枯らして、切り倒された木を説教材料に、敵に対する戦力、私たちにとって前進基地の教訓という信仰の「とりで」（申命記20：20）を築かれました。

そして、この教訓はイエスを拒んで十字架に追いやる実を結ばないユダヤ人国家はやがてローマ軍隊によって滅亡するという警告預言と、実を結ばず無益に貴重な土地をふさぐすべての事象は呪って枯らし、その妨げを積極的に削除できることをも教えられました。

例えば無益に貴重な時間を割く、放蕩習慣、悪趣味、不良債権処理、無益な経済活動、無益な議論や論争、災害、事故、体内に根を張り無益に栄養を摂る癌細胞や病原菌、ストーカーの変なおじさん等、呪って削除できるのです。

そしてお隣の大木も、しかり。御心ならば。

「イエス・キリストの御名で命じる！　実を結ばない大木よ！　枯れよ！」

彼女の命じる言葉は強かった。その朝、早朝からチェーンソウの甲高い鳴り響く音。なぜレストランオーナーが突然、長寿の大木を根元から伐採することにしたのかは未確認ですが、明るくなったイエス様の壁画と残された大きく太い切り株を見るとき、命じる言葉の法則の力は働くと強いと確信します。

そして今度は、私の番です。私がいつも気になっていたのは教会の建物に隣接した真横の電信柱

です！　この電柱は太くて古いタイプで鉄類の金具はすべてさび付いていておまけに傾いています。そこに加えて何か大きなレストラン厨房の丸い残飯入れのような筒状のバケツみたいな、電磁波みたいな、よく分からない変なものが二つもついていて！　とにかくかっこ悪い！　嫌い！　何か、こう、見ているだけで不安定です。

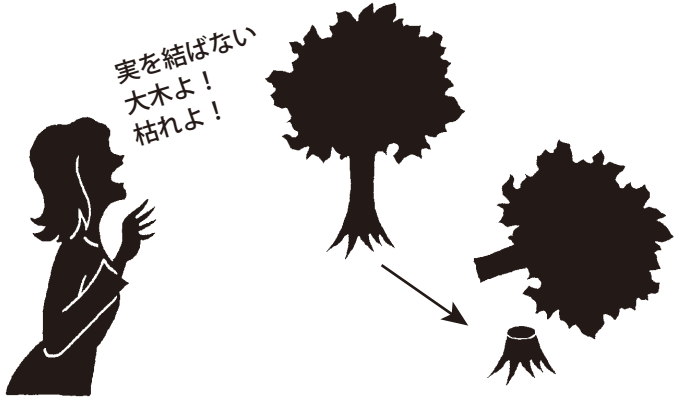
せっかく教会は真っ白な綺麗な美観のビルなのに、真横の時代遅れの電柱は斜めに傾いてバケツ2個をぶら下げて倒壊を思わせる存在でした。私たちは何でも気に入らなければ目の前から呪って削除してしまうというものではなく、もちろんそこまで出来ませんが、もし神様のお許しがあれば、削除してください。と願うものです。実際、私たちの環境に自分では手の施しようがないけれど、出来れば削除してほしい事柄は山ほどあると思います。

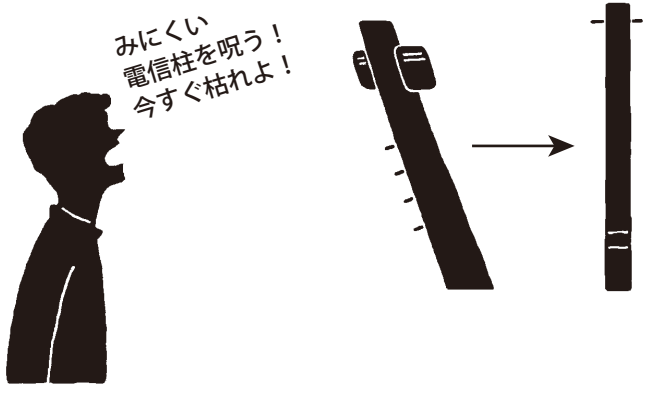
私の場合はそんな時、運命と思って環境をあきらめず、命じて戦って環境を変えようと努力します。今回もそうでした。私は祈って命じました。「イエスの御名で命じる！　この電信柱よ。新しくなれ！」

イエスがいちじくの木を呪って枯らしたので、それは私たちにもできるという教訓です。家内もお隣のレストランの大木を呪って枯らせたのだから、「私にも出来る！」と信じました。

そして真剣に命じたけれど電柱には耳がないので、聞いていなかったようだったので、私はＮＴＴにお電話しました。

〈命じ続ける言葉のエネルギーを活用する法則〉





言い続ける言葉は現実になる

「電柱を新しくしてね」
しかし、NTTサイドは、
「電柱には利権があって、各社の送電線が沢山通っているので、すべての関連会社の合意も必要ですし、その他、許可申請ともろもろ……」
難しいことは何かよく分からないけれど、とにかく難しいと言うことだ。そこでその後の私は、決断して繰り返し、朝に夕に耳なき電柱に向かってまっすぐ指を差して厳しく呪って命じました。
「イエスの御名で命じる！　この実を結ばないいちじくの木のように、曲がった古い、太い、みにくい電信柱を呪う！　今すぐ枯れよ！　新しくなれ！」
しばらくそのように言い続けて、そろそろ飽きて、あきらめかけた半年が過ぎたころ、ある朝、突然、大きなトラックと高所作業車2台に警備員数人が工事関係者とともにやっていました。
そして教会前の幹線道路を片側封鎖しながら工事は始まりました。想像以上に大掛かりな工事に思えましたが、1週間ほどで電柱は新型の細くてまっすぐで綺麗なものに生まれ変わりました！
付属の金具もさびなく小型で巨大バケツも消えた綺麗なものでした。
「電信柱に勝った！」

言い続ける言葉は現実になります。戦時中にアメリカの大型軍用機B18のパイロットが、機体の操縦が上手で、周囲の軍人仲間にはいつもこう公言していました。

「俺は操縦がうまいから、このB18を使って空中で背面一回転できるぞ！　絶対できる」
周囲の軍人たちは小型の戦闘機ではない大型のB型機で空中背面一回転できるとはと、彼の大げさなホラ話をいつもあきれて聞いていました。やがてある交戦時のことです。上空に飛び立つ彼の操縦するB18は敵軍の集中攻撃を受けて無残にも翼が破壊され急激に高度を落としながら墜落しました。しかし軍人たちの目撃証言によると、確かに翼の破壊されたB18が墜落して地面に激突する直前に、一瞬フワッと舞い上がって空中で背面一回転してからドスンと地面に激突したそうです！
「できる！　できる。」と言い続けたパイロットの言葉が皮肉にも人生の最後に現実化したようです。

Bible: the law of success 20

聖書の奥義、成功法則の最大の秘訣は愛です！

――「幸せの免疫物質グロブリンを高める〝愛と感動のある生き方〟」

愛を学びましょう。愛が一番の戦力でもあり、守りでもあり、繁栄の秘訣です。真実な愛があれば、人は大きな失敗をまぬがれ、不思議と成功への道が開くものです。愛を体得した人こそ一番強く、どんな逆境にも負けないのです。実に最大の力、愛こそ出世と繁栄の秘訣なのです。

「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」（ヨハネ一4：7、8）

愛に感動して生きている人はいつも輝いています。愛の重要性をいち早く悟って愛を基準に生きようと追求することが成功への近道です。

デイビッド・マクレーランド医師が学生によって実験しました。まず学生たちの血液検査を事前に行なってから、次にインドで貧しい人々への救済に人生を捧げたマザー・テレサの映画鑑賞を行ないました。映画が終わってから再度学生たちの血液を採取して検査したところ、映画を鑑賞して感動的な心になった学生たちの体内に、病気にかからなくなる免疫物質であるグロブリンの数値が高まっていることが分かりました。この現象は愛と感動を持って生きることが、どんなに健康にいいことなのか、物語っています。

私たちが怒ったり、泣いたりすると、強いストレスに反応して脳内からノルアドレナリンというホルモンが出ます。これはヘビの毒に次ぐレベルの毒性があると言われ、正反対に私たちが、愛に

満ちて喜びや安らぎを感じるとき、β-エンドルフィンという良い作用をするホルモンが脳内から出ます。これはますます体を健康にする要素です。愛はすべてにおいて有益であり、成功の秘訣は愛を基礎とした生き方です。

「愛」という言葉は英語で「LOVE」ですが、ギリシャ語ではいくつかの表現があります。

まず「エピュトミア」の愛、これは「動物的な本能の愛」であり、動物同士の仲良い愛です。

また、「フィレオ」の愛があります。これは「友愛」を意味し、友が友を愛する真実な友情を基盤とした愛です。聖書では友愛について、

「友はどんなときにも愛するものだ。兄弟は苦しみを分け合うために生まれる。」（箴言17：17）

と言い、イエスも**「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」**（ヨハネ15：13）と言われた重大な愛です。しかし、友愛は時に有限の愛と言われ、一緒にいると楽しい、益があるから一緒にいる、害を与える友なら交際をやめて離れる、など利害関係の愛が多く、条件付の限られた愛と言えます。

ダビデは親友ヨナタンをこの友愛で真実に愛し、ヨナタンの葬儀では「あなたのために私は悲しむ。私の兄弟ヨナタンよ。あなたは私を大いに喜ばせ、あなたの私への愛は、女の愛にもまさって、すばらしかった」とまで告白しました。ダビデの評価では、フィレオの友愛はエロスの夫婦愛に優

り、恋人に優る真の友人でした。

有名な言葉「エロス」の愛ですが、このエロスの「夫婦愛」が働いて芸術や文化は発展し、恋愛物語が活性化し、子孫も繁栄できました。

これも人類史上なくてはならない元来、純粋で清い愛です。

不妊症に悩む妻ハンナを慰めようと夫エルカナは「……あなたにとって、私は十人の息子以上の者ではないのか」と自分で言いましたが、本当にその通りの夫婦関係ならば素晴らしいことです。夫婦間、互いに熱く愛し合うべきです。しかし聖書では残念ながらエルカナの激励以降も効果乏しくハンナは心痛んで激しく泣いています。

ハンナはエロスの夫婦愛に勝る、もっと強い愛を追い求めていたようです。

実にそれが「ストルゲ」の愛です。

これは親がわが子を愛する優れた「父母性愛」です。この愛はとても強く、無条件な愛です。問題が多く、益がなくとも、わが子だから無条件で愛せる純粋な愛で、神様の愛に極めて近い愛です。しかし、これも限界がある有限の愛です。わが子のためにはどんなに犠牲を払って助けられても、すべての他人の子供のためまでは及ばない愛だからです。

聖書ではソロモン王の時代にふたりの遊女が一緒に共同生活していましたが、各自に赤ちゃんがいて、ある日、ひとりの母親が誤って自分の子供の上に伏せて寝てしまい、わが子を窒息死させてしまいました。あわてた母親は隣で寝ている母親の生きている子供と死んだ自分の子供をこっそり取り替えました。翌朝、目覚めた生きている子供の母親は一大事です。子供が死んでいる。しかも、よくみるとわが子ではない。しかし双方の主張が対立して「生きているのがわが子、死んだ子供があなたの子供！」と争いに。明白に、どちらかがうそをついていますが、双方の命がけの主張の前で、互いの証人もなく、ＤＮＡ鑑定もない時代、彼女たちは法廷のソロモン王のところにこの難事件の解決を求めて集まってきました。ソロモン王には神様の知恵がありました。双方の主張をしっかり聞いたソロモン王は優れた判決を下しました。

「王は言った。

「ひとりは『生きているのが私の子で、死んでいるのはあなたの子だ。』と言い、また、もうひとりは『いや、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子だ。』と言う。」そして、王は、「剣をここに持って来なさい。」と命じた。剣が王の前に持って来られると、王は言った。「生きている子どもを二つに断ち切り、半分をこちらに、半分をそちらに与えなさい！」（列王記第一３：23―25）。

なんと公平で平等で頭のいい王様でしょうか！　こうして実に単純でえらい王様の命令に従って平等に半分ずつ分けて、一件落着しました。

うわさを聞いた都中には恐れが生じて……あ、ぜんぜん違いました。

聖書は言います。

「すると、生きている子の母親は、自分の子を哀れに思って胸が熱くなり、王に申し立てて言った。「わが君。どうか、その生きている子をあの女にあげてください。決してその子を殺さないでください。」しかし、もうひとりの女は、

「それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください。」と言った。そこで王は宣告を下して言った。「生きている子どもを初めの女に与えなさい。決してその子を殺してはならない。彼女がその子の母親なのだ。」

イスラエル人はみな、王が下したさばきを聞いて、王を恐れた。

神の知恵が彼のうちにあって、さばきをするのを見たからである。」（列王記第一３：26―28）。

本物のストルゲの愛は、偽りの母親相手に自分が敗訴した偽証と誘拐未遂の重罪人となって公に裁かれても、愛する我が子だけは生き延びて欲しい、無実な自分が身代わりに死んでもいいから生かしてあげたい、そんな純粋で美しい犠牲愛の精神に満ちています。

愛の反対は憎しみではなく、無関心です。愛するからこそ積極的に強い関心を抱き、自分のこととして我が身で引き受け、時にこの本物の母親のように大胆かつ勇気ある決断と行動もとれるもの

です。

そのような訳で、もし最強の愛を比較ランキングすれば、一位、ストルゲの父母性愛。二位、フィレオの友愛。三位、エロスの夫婦愛。四位、エピュトミアの動物同士の愛。となりますが、実は最強の愛、父母性愛に遥かに優る完全な愛がここにあります。

それこそ、聖書が啓示された神様が人を愛する「アガペー」の愛、無条件で純粋な「神の愛」です。

愛は不可視ですが、その支払われた代価、犠牲の大きさで、おおよそ、愛の深さと真実さが分かります。

愛する人には高価な代価のプレゼントも惜しくない、愛する人の為ならどんな犠牲伴う大胆な冒険的行動も怖くないものです。

神様の愛が、どれ程大きく人知を超えたカリスマ的なものであったのか、それを知るには十字架の犠牲を知ることです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」（ヨハネ3：16）

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。

ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」（ヨハネの手紙第一4：9—10）

イエス・キリストは王の王、主の主、神様のひとり子なのに、天国の栄光を捨てて、この世に人となって来られ、罪もないのに十字架の上で私たちの罪を身代わりに背負って血潮を流して死なれました。

最大の犠牲、いのちまでも与えられた本物の愛です！

大胆かつ勇気ある驚くほど偉大な愛です。地獄に滅び行く私たちを放っておけず、積極的に私たちに強烈な関心を抱き、自ら進んで身代わりの犠牲を引き受けてくださったからです！　そして罪なきイエス・キリストは三日目に死人の中からよみがえられました。

このことを信じるすべての者に、父なる神様との和解と罪の赦し、聖霊と天国、永遠の命までも与えてくださるのです！

神様はあなたを愛しています！

恐れないで勇気を持ってこの愛を受け入れて信じる者になって下さい。

イエスを信じたとき、初めて多くの知恵と知識が与えられてビジネスが繁栄できるのです。